

令和2年第13回教育委員会議事録

令和2年8月5日（水）

杉並区教育委員会

教育委員会議事録

日 時 令和2年8月5日（水）午後1時00分～午後4時36分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 白石 高士 委員 對馬 初音
委員 久保田 福美 委員 伊井 希志子
委員 折井 麻美子

出席説明員 事務局次長 田中 哲 教育政策担当部長 大島 晃
教育人事企画課長
庶務課長 都筑 公嗣 済美教育センター長 佐藤 正明
特別支援教育課長 正富 富士夫
就学前教育センター長

事務局職員 計画調整担当係長 倉岡 直哉 担当書記 春日 隆平

傍聴者 9名

会議に付した事件

(議案)

- 議案第76号 杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和3～6年度使用）の採択について
- 議案第77号 杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和3年度使用）の採択について

目次

議案

議案第76号	杉並区立中学校において使用する教科用図書 （令和3～6年度使用）の採択について・・・・・・・・・・	4
議案第77号	杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校 及び中学校の特別支援学級において使用する 教科用図書（令和3年度使用）の採択につい て・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66

教育長 それでは、ただいまから令和2年第13回杉並区教育委員会定例会を開催いたします。

本日の会議について事務局より説明をお願いいたします。

庶務課長 本日の議事録署名委員につきましては、教育長より事前に折井委員との指名がございましたので、よろしくをお願いいたします。

続きまして、本日の議事日程についてでございますが、事前にご案内のとおり、教科書採択に関する議案2件を予定しております。

以上でございます。

教育長 それでは、審議に先立ちまして、傍聴の皆様方に申し上げます。会議中の私語・雑談等をご遠慮いただきますようお願いいたします。

それでは、本日の議事に入ります。本日は教科書の採択を予定しておりますので、委員の皆様のご意見を伺いながら、最終的に委員会としての結論を出していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議案の上程、説明は事務局よりお願いいたします。

庶務課長 それでは、日程第1、議案第76号「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和3～6年度使用）の採択について」を上程いたします。

済美教育センター所長からご説明申し上げます。

済美教育センター所長 私から、議案第76号「杉並区立中学校において使用する教科用図書（令和3～6年度使用）の採択について」、ご説明申し上げます。

今年度採択を行う教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律等に基づき、令和3年度から令和6年度までの4年間、使用するものとなります。文部科学省の検定に合格した10教科、16種目、69種類、145点の教科用図書からご審議いただくこととなります。

次に、調査事務についてご報告いたします。教科用図書の調査・研究については、教育委員会が任命した委員による教科書調査委員会を設置し、規則、要綱、手引に基づき、全ての教科用図書について、専門的な見地から調査・研究を行いました。その際、種目別の調査を各種目別調査部会へ、学校別の調査を各中学校へ依頼し、その報告書を基に2回の協議を行ってまいりました。

協議に当たっては、教科書展示会で、区民の皆様から頂きました区民

アンケート94通を参考にしております。また、2回目の調査委員会においては、保護者代表の方にもご参加いただき、ご意見を頂いたところで

す。

調査・研究結果につきましては、7月28日に、教科書調査委員から教育委員へ、調査報告書とともに口頭でもご報告させていただきました。

提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、区立中学校で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。

議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、これよりご審議をお願いいたしますが、審議に当たりましては、教科書の発行者名を明らかにしてご発言いただきますよう、お願いを申し上げます。

それでは、国語についてお願いをいたします。

折井委員 国語に関しては、私は様々な物語ですとか詩ですとか、漢文ですとか古典、それぞれしっかりと学ぶ必要があると思うのですが、ただ、中学校になってきますと、言語で論理的に物事を考えて、それを表現するという力を育成することがとても大切だと思っています。そして論説文のようなものも、理解できるだけではなくて、それを表現と発表につなげていくその工夫が必要だと思います。それと、自分が発表する側だけではなくて、聞き手側、自分が聞き手のときに、どう行動すればよいのか、そういったところのコミュニケーション。発信側と受け手側、双方がきちんとコミュニケーションを取っていくところの力を学ばせることがとても大切かなと思います。

その点を考えますと、私は光村図書がとてもいいなと思いました。例えば、情報を的確に聞き取るメモの取り方ですとか、情報整理レッスン、比較分類等々がいいと思いました。教科書調査委員会でも、学び方を学ぶ、学習過程がしっかりと示されているというところで、主体的な学びにつながるというお話もありましたけれども、光村図書の場合は、その辺りをとても丁寧に扱っている教科書だと思いました。

東京書籍も、論理的な言葉の力、議論する力、分析する力、整理する力をしっかりと取り上げている点でいいと思ったのですが、キャラクターが結構いろいろ目立つ教科書で、そのような点を考えると、光村図書が一番いいのかなと私は思いました。

久保田委員 私は東京書籍の教科書を見たときに、「てびき」で、学習の視点を明確にしているのがいいなと思ったところです。そのほかにも、「学びの扉」とか、巻末の基礎編、資料編とか工夫が見られたなと思います。

それから三省堂の場合も、全ての単元で「学びの道しるべ」、これで視点を明確にしているということも特徴的でした。

教育出版の場合は、今回、SDGsと各教科、単元の関連を位置づけているというのが特徴的なのかなと思いました。

4つ目の光村図書については、やっぱり小説とか詩とか、説明文、エッセイ、古文、漢文、和歌、俳句、文法等々、やっぱりバランスよく配置されているなと思います。先ほども出た、論理的な思考力を育てるといふ点では、思考を広げる、整理する、深めるといふ、狙いが大変明確に出ているつくりになっていると思いました。以上です。

伊井委員 私も4社全部拝見いたしました。新学習指導要領では、主体的、対話的で深い学びが求められていると思います。その視点で、論理の運びとか、分析の仕方の視点ということで教科書を見てみると、それぞれ重点を置いている教材に工夫があると感じました。各社、話題性のある方や、現在活躍されているジャーナリストの方の文章とか、コメントとか載っていて、教材の内容の幅も広く、とても多彩で、興味深い教科書になっていると思っております。古典に興味を持つきっかけになったり、情報性のある読み物とか、科学的な文章が楽しめるなど、生徒にとっても様々な教材に出会えることは、多彩な価値観に出会う機会ともなって、多様性を育む意味でも、各社充実した内容になっていると考えています。

例えば4社とも、1年生で扱われている教材に、「少年の日の思い出」がありますけれども、その読後の導きということで比較してみますと、東京書籍では「てびき」として、人物の思いを想像しよう。構成の工夫や表現の効果について話し合おうとなっています。三省堂では、「学びの道しるべ」という形で、目標、それから読みを深める、自分の考えを深める、学びを振り返る、目標をもう一度確認して、学んだことを自分の言葉でまとめよう、さらに学びを広げる、この話を打ち明けられた私は、どのように言葉を返すだろうかという辺りまでも想像を広げるような問いになっています。教育出版でも「道しるべ」として、内容を読み深めよう、自分の考えを伝え合おうという広がりを持たせています。そ

して光村図書では、見通しを持つ、読み深める、考えを持つ、振り返るという、考え方、共感するところや疑問に思うところを話し合ってみようという形で、教科書の読解が進んでいます。

国語の教材に関しましては、ただ読解するだけではなく、今回の指導要領では、さらに探求していく過程で作品を読み解き、さらに自分に向き合って意見交換するつくりになっているなど感じています。そういう意味では、全体に文学的な文章教材及び説明的な文章教材の割合が増えたように感じました。そういったバランスを、東京都の教育委員会の教科書調査研究資料で見ると、知識及び技能の内容を取り上げている単元数はじめ、思考力、判断力、表現力等において数値化された単元数のバランスが万遍なく力がつくように配置されている光村図書がいいのではないかなと私は感じました。

三省堂は、質と量が求められている語彙、それから語句に関する項目、情報の扱い方に関する項目、また言語活動に関する項目などは、ほかの3社と比較しますと群を抜く数字で、これはまたそこに重点を置いている教科書会社としての思いが表れているなど思っています。情報社会の中では必要かつ確実な情報を自分で選別していく力は大切であると思われませんが、私としては、国語で出会う文学的な教材で広がり深まる思いは大事な機会だと捉えておりますので、私は光村図書がいいのかなと考えております。以上です。

教育長 今、伊井委員もお話しされていたのですが、論理的な文章の数がすごく増えたなというのが第一印象でした。これは各社ともです。2年後ですか、高校で論理国語が選択になるというのがあり、論理的な文章、もちろん文学的な文章も大事なのは分かるのですが、今の流れからすると、論理的な思考力は、論理的な文章で育成していくというのが先生たちにとってもやりやすいのかなと思っています。先日の教科書調査委員会の報告でも、考える力の育成というのは物語文よりも論理的な文章でやったほうがやりやすいという委員の報告もありました。実態から見たときに、そういった割合が増えていくというのは非常によろしいことなのかなと思っています。

各社ともいろいろ工夫して、素材、題材を出していますが、いわゆる教科書のための書き下ろしという部分が多くて、例えば東京書籍の「ニュースの見方を考えよう」というところは池上彰さんの文章があり、批

判的に見るということが書かれています。それから教育出版の「写真で『事実』を表現する」というところで、写真を見ながら、いわゆる撮影者の意図が入った写真なのですが、それで批判的な見方をするという、これも書き下ろしなのですが、非常に各社が工夫した教材、題材が出ているなという感じを受けました。

私としては4社見て、光村が一番バランスよくできているなと思ったのですが、例えば3年生の教材で、「人工知能との未来」という、将棋の羽生さんと、あと、「人間と人工知能と創造性」という松原さんの文章を対比して読ませるところがあって、対比して、比較して読ませる中で、要旨を捉え、子どもたち同士に対話的なグループ討論をさせ、自分の考えを文章にまとめて表現させる。そうした、いわゆる批判文、批評文を書かせるというのが、非常にこれからの子どもたちにとっても大切なことなのかなと思います。各社とも同じような題材は入っていますが、読む・書く・聞く・話すのバランスがよくできている光村図書が私はいいのではないかと考えています。

對馬委員 今、皆さんがいろいろご意見を言うてくださって、本当にそうだなと思うのですが、国語はやはり、国語だけではなくて、ほかの教科にも生かせるような基本的な思考力だったり、生活に生かせる文章であったり、それから読解力であったり、そういうことを身につける教科だと思うのです。各社とも学習過程がよく分かる、学び方を学ぶことがよく分かるつくりになっていたなというのをすごく特徴に感じています。

三省堂の場合には、三省堂は前、分冊で資料編というのがあったときから、その資料編が大変充実していて面白いなと思っていたのですが、今回もやはり巻末の資料編が非常に充実していることと、それからやはり語彙の部分が非常に充実しているなと感じました。

東京書籍は、私はもともと学校図書館の出身なもので言わせていただくと、やはり紹介されている本は、ここが一番いいと私は思いました。本への、読書に関する項目、いざないというのが非常に充実していると感じました。それから学習の目標も非常に明確で、調べ学習へのいざないも大変よかったと思います。

教育出版は、久保田委員がおっしゃった割と身近なSDGsであったり、AIであったり、そういった幅広いテーマで、調べ学習や探求学習にも生

かせるような教材が多かったように感じました。

やはり、皆さんおっしゃるように光村図書が全体のバランスが非常にいいなと思うのですけども、小学校からの導入のところで、小学校で勉強した工藤直子さんの詩から入るというところで、やはりその小中のつながりもすんなりと、国語というのは、小学校でも国語で中学でも国語ですけれども、やはり教科書が厚くなって、漢字がいっぱい増えてという印象よりも、入りやすい、中学校になっても勉強しやすいイメージづくりができていたのかなと思います。

それから全体に、情報リテラシーも非常に繰り返し丁寧に出てきて、これもよかった点だと思います。あと主体的、対話的な場面、活動の場面も非常に多くて、使いやすいのかなと思いました。それから読書活動に関しても、光村が一番紹介例が非常に多くて、読書会をしようとか、ビブリオバトルをしようとか、いろいろな展開例がありますので、こちらも杉並区の活動にも非常に合っていると思いますので、光村図書が全体としてはよかったのではないかなと思いました。

教育長 よろしいですか。それでは今、皆さんのご意見を聞いていたところで、国語につきましては光村図書に決定としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、国語につきましては光村図書出版と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、書写についてお願いいたします。

伊井委員 書写についても国語と同様4社でした。書写の時間は、1、2年生で年間20時間ほど、3年生では10時間ほどと伺っております。それを踏まえると、生徒たちにとってはとても貴重な時間になるのかなと感じております。硬筆と毛筆と両方やるのですけれども、今は墨汁でやることが多いですが、墨の香りをかぎながら白い半紙に向き合うというのも、忙しい子どもたちにとってとてもいい時間になるのかなと感じております。

4社ともそれぞれに、東京書籍では、「書写ブック」として、三省堂では資料編として、また教育出版では3年生の学習の成果を、それぞれに、少しの差はあるのですけれども、はがき、手紙、年賀状、宅配便の送り状、原稿用紙、入学願書の書き方に至るまで紹介されていて、参考になるなと感じました。三省堂では時候の挨拶にも触れていて、とてもいいなと感じました。

それぞれに特徴がありますけれども、文字を書く学びを考慮すると、新出漢字なども、国語の教科書と連動できるとか、それから毛筆の際にお手本として限られた机のスペースに広げるときの大きさも考慮し、また、基本の筆遣いとか、姿勢とか、とめ、はらいなどの表記、毛筆の道具も最初に触れていたりなど、デジタルコンテンツで文字を書くときのやり方なども毛筆の筆遣い、姿勢なども見ることができて、今回のようなこういう状況の中にあっても自主的に学ぶことができるという点、また、文字の使い分けやコラムなどのユニバーサルデザインにも触れて、目的に応じて文字を使い分ける必要性を考える機会になるということで、以上の点から、国語との連動にこだわるだけではないのですけれども、光村図書がいいのではないかなと考えました。

對馬委員 私も光村図書で、国語と一緒にというのがやはり使いやすいのかなと思うのですけれども、光村図書には本の帯の作り方という例題が出ておりまして、杉並区では本の帯コンクールというのをやっていて、これに参加してくれる中学校も大変多いので、これは使いやすいのかなと感じました。以上です。

教育長 ほかにいかがでしょうか。ほかにご意見がないようでしたら、書写は光村図書出版と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、国語、書写につきましては光村図書出版と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、社会、地理的分野についてお願いをいたします。

久保田委員 地理の教科書、4社ありまして、東京書籍では、「課題をつかむ」「追究する」「解決する」という流れは大変明確で分かりやすい構成になっていたなと思います。そのほか、「みんなでチャレンジ」というところでの対話的な活動、「資料から発見！」というスキルアップコーナーとか、「見方・考え方コーナー」、それから関連、詳しく扱っているという意味での、「もっと地理」というコーナー等々、やはり非常に主体的、対話的で深い学びを意識したつくりになっているのいいなと思いました。そのほか、まとめの活動、何々しようとか、基礎・基本のまとめが章ごとにきちんと置かれていて、これもいいところだと思いました。

また、教育出版では「地理の窓」というコラムで、やはり生徒たちの興味・関心を喚起する、広げるといふところがいいなと思ったところです。そのほか「地理の技」コーナーとか、「特設ページ『地域から世界を考えよう』」とか、また、章ごとの理解にも、学習のまとめと表現という形できちんと位置づけられていました。

一番インパクトが大きかったのは、カラーの見開き4ページの、「宇宙からとらえた世界」「日本列島」、これが、インパクトが大きかったなと今でも印象に残っています。

それから帝国書院の場合には、前半の「世界の諸地域」の学習のところでは、必ず見開き2ページで、写真で眺める〇〇州という形で、必ず学習のスタートがなされていて、これが非常にいい入り方で、各州ごとの学習に生徒たちが興味・関心を持って、意欲的に、まさに主体的に取り組んでいける工夫だなと思いました。

それから、後半の「日本の諸地域」のところでは、写真で眺める〇〇地方というのが、同じように見開き2ページであるのですが、もう一工夫、日本の場合にはあって、その前段1ページに、絵図のイラストで1ページ置かれていて、その後、見開きで写真で眺めるといふつながりになっていて、また日本の諸地域の学習も、一工夫されていて、これもいいなと思ったところでありました。

全体的にやはり主体的な流れの構成、見通し、展開、章ごとの振り返り等しっかりできていたと思います。そのほか、対話的な学び、コラム、特設ページとか、深い学びの特設ページとか、技能を磨くコラム、23のテーマが掲げられていましたが、そんなふうにより全体づくりの工夫もたくさん見られて、これもよかったと思った点であります。

最後、日本文教出版の場合は、第1編の入り方が世界と日本の地域構成という形で、大まかにつかんで、その後の学習に進んでいくという、これがいい入り方かなと私は思いました。あとの単元構成の流れは、ほかの社の教科書と変わらずでいっています。以上です。

對馬委員 どこもまず写真がきれいで、とても興味関心を引くのにもよかったなと思います。教科書調査委員会の先生方の報告のときに伺った話でも、やっぱり写真というのは、本文を補完するものとして大変重要な資料であるとも伺っております。その点では、今、久保田委員がおっしゃった帝国書院なんか見開きのところで写真が幾つかありまして、特に

世界のところですね。人々の生活なんかがよく分かる。景色とかだけではなくて、そこがよく分かるのが非常に学びにつながるなど感じました。あと、帝国書院のまとめのところ。地理的な見方・考え方を働かせて説明しようというところで、思考力、判断力、表現力を意識した多様なまとめができるようになっていたのも非常によかったと思います。

東京書籍も、チェックで基礎・基本を押さえて、その後、写真も大変よかった、学びやすいなど感じました。以上です。

折井委員 今、コロナ禍で本当に海外旅行も行けない、国内旅行もなかなか行きづらい中で、地理の教科書を拝見したときに、本当に世界が広がるというか、写真のインパクトの大きさに、本当に心を動かされることが多かったのですけれども、特に私は、結構、教育出版の写真の大きめなところ、インパクトもあるところ、またグラフとかも見やすいのです。なので資料を読み取る学習がしやすいのかなと思ったりしたのですが、もう1点注目したかったのが、地理はどうしても情報量が多くなるのです。やはり教科書の作り手としては、恐らくいろいろなことに触れさせてあげたい、その気持ちからいろいろなものが入ってきて、それは実際、効果的であると思う一方で、1時間の間に何ページ分を進むとなったときに、やはり処理できる範囲があるのかなと思いました。

その点で、教育出版は、自主的に学習を振り返ることもできるような工夫もあったりしているところで、あと帝国書院は、章の「学習をふりかえろう」というところでは1ページ分とっている。ただ、本文の内容で適切な範囲で押さえているのかなと思いました。

東京書籍は、導入の活動がとても目立つなと思ひまして、私は専門が英語教育なのですけれども、授業の中でよくあるパターンというのが、導入で盛り上がってしまっていて、本来学ぶところがある意味圧縮されてしまっていて、消化不良のまま次に行くので、復習しなければいけないという、本当によくあるパターンなのです。私は地理の専門家ではないですが、とても導入の活動が大がかりで、例えば世界の国のクイズだとか、世界の国の生活を探ろうだとか、本当に楽しそうなのです。これをやったら本当に楽しいだろうと思うし、学びもとても、自分で調べたりというところですごく深くなるだろうと思いつつも、ちょっとここは大がかりで、消化不良になってしまうのかなと思いました。

写真ですとか、もしかしたら学びのほどよいコンパクトさということ

を考えると、私としては、教育出版に引かれる部分もあるのですが、やはり帝国書院が、バランスというのでしょうか、どの点についてもよく練られて、考えられている分量と質なのかなと感じました。

伊井委員 今、折井委員が触れられたところを私も思っていて、比較というか、いろいろな会社の教材を見させていただいて、多分、写真の読み取り方などは、東京書籍は建物の写真を挙げていて、屋根、窓、壁、植物で比較となっていたり、帝国書院は市場の写真が載っていて、衣服や店の様子に注目、売り物に注目となっていて、それぞれの会社でいろいろな視点があつてすごく面白いなと感じました。

例えば、「もっと地理」というところがあるのですがけれども、水没の危機にあるツバルにも触れていたり、それぞれに特徴があるのですが、先ほど折井委員のおっしゃったように、どの教科書もそうなのですが、本文を囲む資料や地図については、練り上げて、すごく作り込んでいるなという印象です。

日本文教出版のものは杉並区の地下の調整池について紹介されていて、地域に即した学習ができるため、また、自由研究やチャレンジ地理というコーナーで、より学びを深め、地理的視野を鍛える作業が行われ、さらに地域の問題解決への取組を行う中学生の姿が、巻末のほうにも記されていて、地域とのつながりの面では学びが広がっている、地域とのつながりを大事にしている杉並区の教育にも当てはまる場所があるのかなと考えています。

先ほどの課題が圧縮される時間数というところに視点を置きますと、新学習指導要領の中で、自ら課題を見つけ、主体的で対話的な学びという視点に立つと、東京書籍、帝国書院、いずれも見開きの振り返りページを設けています。東京書籍の基礎・基本のまとめでは、単元を振り返り、発展的なまとめの活動というのに、例えばイベントの企画案のような、新たな取組をつくり出すようなしつらえになっているものもあり、その辺りはちょっと時間を要するのではないかなと想定される気がしました。

同様の振り返りにおいて、帝国書院にもありますが、「節の学習をふりかえろう」という名前になっているのですが、学習したことについての語句の記入とともに、地理的な見方・考え方を働かせて説明しようという取組で、思考力、表現力、判断力を使つての学びとなり、深まりの

可能性や、その次のページにあります、「地域のあり方を考える」というページがあるのですけれども、そこは杉並区の取組への学びを深めるのではないかなという点と、それから、それぞれの課題に向けての時間的な配分が、ややコンパクト化している点から、帝国書院を推したいなと思いました。

教育長 各社とも学習課題があり、調べたりと、いわゆる社会科でいう、つかむ・調べる・まとめるという段階が、どの教科書においても、これは問題なくできるのだろうなと思っています。

私がぱっと見て、先ほど久保田委員おっしゃったけど、教育出版の宇宙から捉えた地球、昼と夜の。夜の地球を見たときに、日本は何でこんなに明るいのだろうなど。日本列島が浮かび上がってくる。それから中東の油田の光があったり、街の光だけじゃない、いろいろな光が夜の地球の中から見えてくる。あれは非常に見ていて荘厳だなと思って、素敵だなと思って見ていました。

日本文教出版は、もちろん、つかむ・調べる・まとめるという学習過程は踏んでいるのですが、何となく見ていて、知識、理論の定着がちょっと重視されているかなと、私は印象を受けました。というのは、例えばまとめに問題があるのですが、知識を問う問題ですね。例えば、ここは何という川とか、何という山脈とか、そういう問題が非常に多くあったので、その辺りはちょっと、私は違和感を感じました。

東京書籍は、日本の諸地域におけるまとめのところが面白かったのですが、例えば、近畿地方のところは、テレビ局のディレクターになって近畿地方を発信しようという大きなまとめの課題があって、それを子どもたちが話し合っているのですね。九州だと、先生になって小学生に自然と人々の関係を伝えようと。それぞれ地方によって課題があって、それを中学生がグループで話し合っまとめていくという、この辺りというのは、最後のまとめの課題の設定の仕方が面白いなと思いました。

そして帝国書院ですけど、まず自然災害、これは学習指導要領にあります。自然災害についての扱いが、一番帝国が丁寧だったなと私は思っています。今回、九州の災害ですとか、本当に毎年のように日本で大きな災害が起きていて、今回、学習指導要領においても、ハザードマップのこととか、そういうものが含まれています。そうした中で、ハザードマップの読み取り方とか、それから自然災害についての扱いが非常に

丁寧に説明され、写真が豊富に掲載されていたということは、非常に現代のところに合っているのかなと思いました。

また、帝国書院が東京ですね、関東ではなくて。東京が題材として多く取り上げられているなという感じを受けました。全体的に見て、帝国の教科書について、そういったバランスというところでよかったなと、私は感じました。

折井委員 私も同感です。教育出版はインパクトを私はすごく感じて、一番最初に、本当に面白いと思ったのですけれども、ただ、やはり写真集ではないというところですね。また、東京書籍のように、導入が面白い、これは楽しいだろう、これは盛り上がるだろう。でも、それだけでもない。やはり教材として適切な量で、導入をうまく入れて、そして最後のまとめで、きちんとしたまとめ。それは今までの客観テストのように穴埋め問題だけではない、主体的な学びだとか、学びを深めるというところまでしっかりと時間内にできるというところがやはり帝国書院が一番優れていると思いますので、私も教育出版に引かれつつも、やはり教材として優れている帝国書院がいいなと最終的には思います。

教育長 ほか、ご意見よろしいですか。では、ご意見がないようですので、これまでの皆さんの議論を踏まえて、社会、地理的分野につきましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、社会、地理的分野につきましては、帝国書院と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、社会、歴史的分野についてお願いいたします。

對馬委員 歴史は7社ございまして、全部拝見しましたが、各社とてもいろいろな工夫が見られました。小学校のときには、歴史というのは主に人物史でやってきているところ、中学校になると通史、つながっていく教科になっていくということで、例えばどこも最初のところに割とそういう人物がずっと並んでいて、復習みたいにするページがあるのですけれども、例えば教育出版などは写真カードで、1人ずつはっきりしていて、これは復習するのに役に立つのかなと感じたりしました。

今回、多分初めてだと思うのですが、山川出版社、高校の歴史でとても有名なところかと思いますが、ここが中学校の歴史の教科書を作られ

て、興味を持って拝見しました。歴史の流れはすごくつかみやすく面白く面白く読み物といえますか、面白かったのですが、分量が豊富で、非常に内容が深い分、どの中学生にも向いているかなというのと、ちょっと厳しい子も出てくるのではないかと思います。それと同時に、対話的な活動というのがあまり示されていないで、まとめなども、割と問題に答えるみたいな形式が多かったように感じました。

それに比べますと、東京書籍などは、例えば各章のまとめの部分で、これは地理でもさっき面白いまとめ方があると、教育長からお話がありましたけれども、歴史の部分でも、例えばくらげチャートとか、Xチャートとか、ウェビングとか、いろいろな趣向でそれぞれの時代をまとめるようにして、ここをやっていくと、いろいろなまとめ方の方法を学ぶこともできるなと思います。1つの問題に対して答えを考えるだけでなく、議論したり、対話的な学びができるような形にできているなと思いました。写真や資料も豊富でしたし、持続可能な社会に向けてという形につながっていくような作りだったと思います。

あと、帝国書院の場合には、右端に年表があって、今どの時代を勉強しているのかが分かりやすかったということと、それから、各時代の章の最初の導入のところに見開きで、その時代の人々の暮らしが描かれていて、こんなことをしている人がどこにいるか探してみよう。私などはちょっと小さ過ぎて探すのも難しいところも中にはあったのですが、非常にそこは興味、関心を引くと思います。前の時代や次の時代と比べていくことで、どこが変わったかなどはとても分かりやすかったです。

それから、見開きの1ページで1時間勉強するようになっているのですが、その時間のまとめの確認しようとか、説明しようという部分で、本文の言葉を使って説明するようになっているので、これがやはり、やってみようと思うと、なかなか難しいというか、よく分かっていないとできないので、これはいい仕掛けだなと思いました。写真も豊富ですし、主体的、対話的な学びに適していると思うので、帝国書院か東京書籍でもいいのかなと感じています。

教育長 杉並区が10年くらい前に小中一貫教育を始めて、そして小学校の先生と中学校の先生がお互い授業を見合ったりしたときに、ある小学校とある中学校の先生が、ちょうど社会科の、中学校の歴史的分野、歴史の授業をやっているところを小学校の先生が見るという場面があった

のです。子どもがつぶやいたのです。何で先生、6年生でやっと歴史が終わったのにまたやるのと。そうですね。6年生はずっと歴史をやった後に、またやると。これは先ほど話があったように、小学校は人物を中心に学習し、中学校の場合はそれに串を刺す通史であると。そんな説明を子どもにしてもしようがないので、もっと詳しく勉強するのだよとあの先生は言っていました。

中学校の歴史は、子どもたちにとってみて、また同じことを繰り返すのかという思いが、やっぱりスタートの時にはあるかもしれない。でも歴史が好きな子は自分で漫画を読んだりしていて、とっても興味、関心の高い子と、そうでない子と様々いる中で、中学校の歴史はどういうふうに勉強していったらいいのかなというのが、教科書を使ってしっかりと分かるころはいいなと思いました。そうすると、私は、帝国で先ほどもお話があったように、単元というか、時代の頭というのですか、見開き2ページで様々なことが絵に盛り込まれているのです。時代の特徴が絵の中に書き込まれていて、その中に、アとかイとか番号があって、後々出てくる本文とリンクしていて、分からなかったら絵に戻ることができるようになっている。これは帝国書院の教科書の作り方ですけど、とっても分かりやすいなと思いました。

中学校の先生が、子どもたちに、ほら、こんなこと小学校でやっただろうとよく言っていたのです。10年前、小中一貫をやったときに。こんな歴史上の人物が例えば出て、やっただろう。小学生は知らないと言っているケースを結構見ました。これはさっきも言ったように、小学校は人物中心でしかやっていない。中学校はそうじゃない。しかしそれを中学校の先生が、なかなかそこを理解できていなくて、小学校で1回歴史やってきただろうという観点でしか物を見ていなかった。こういう結果なのだろうなと思います。今はそういうことがなく、中学校の先生は、どういう人物を小学校でやってきたかを理解し、小学校の先生は、人物を教えるのだけど、そのつながりをどうして行くかを意識しながら、小中一貫を杉並区ではやっているのです。だいぶそういうケースは少なくなりましたが、中学校に行って通史をやるときに、歴史とはいわゆる人物の出来事ですから、そういった人物の流れをしっかりと学んでいくというのはとても大事なことであって、そういうのを学ばせられるのは、私は導入の絵を通して、その時代の背景を学んでいくというのはとても大

事だなと思いました。それがまさに歴史的な見方、考え方なのだろうなと思います。

先ほどありました山川出版は、人物を取り上げている数が東京都の資料によると非常に多いのです。ですから本当に細かいところまで取り上げているので、果たして、先ほど話した歴史とか、そういうのがあまり得意じゃない子にとってはちょっと厳しいのかなと思いました。ということで、私は帝国書院がいいのかなと思います。

伊井委員 私も繰り返しになりますが、最初の2ページの広がりはとても面白いなと思って手にとったときに、ああ、ここから興味のきっかけになるのであれば、本当に面白いと思いました。

あと、教科書にいろいろな仕掛けがしてあって、帝国書院と、それから東京書籍もあったと思うのですけれども、あと日本文教出版も、各ページに時代のスケールというのですか、今ここをやっていますよという年表みたいなのがついていて、あれは、今どこを学んでいるか、それからほかの世界の国とバランスを見る、今、この時代が日本のこの時代に当たっているのだということを確認する上でも、とても効果的だなと感じました。山川出版に関しては、やはり少し、どの子にも当てはまるタイプの難易度ではないのかなと感じております。

それから、教育出版の「歴史を探ろう」という辺りの、琉球とかアイヌの文化を伝えた人たちとか、後藤新平と杉原千畝というテーマで、そこに説明というか、文があるのですが、それは説明がとても詳しくて、参考になるなと感じております。

歴史もページごとに、すごくいろいろな資料とかが出ていまして、地図帳もそうかもしれないですが、例えば鎌倉幕府のページなどを比較したりしますと、その前後にモンゴル帝国の征服に関する地図とか、資料の使い方があるのですが、そこを学ぶに当たりまして比較すると、金剛力士像の辺りの迫力というのが、帝国書院のものはすごく迫力があるなとインパクトを受けました。

文章的なことですがけれども、本文を読んでいくに当たって、東京書籍も周りにいろいろな情報があるので、とても充実していると思うのですが、その辺りが、帝国書院は読んでいても、また見ても楽しめて、さらに研究が進んでいると感じました。

教科横断的な観点で見ると、時代が現代に近づいてくると、公民

との連動も増えて、本区とも関わりのある歌人の与謝野晶子はじめ、女性保護論争について多面的、多角的に考えてみようというコーナーで、テーマになっているのがとても面白いなと感じています。ある意味これは、国語にも、家庭の分野にも関連していて、学びの広がり、深まりを目指すこともできるかと思います。東京書籍でも、選挙について取り上げたりしている点が、地理、歴史、公民はお互いに関連している重要さが伝わってきたなと思います。

デジタルコンテンツもそれぞれ充実しているのですが、自主的な学習の際の学びの深め方なども含めて、全体のバランスを見て、私は帝国書院のものが使いやすいかなと感じました。

久保田委員 今回、歴史の教科書は7社と大変多かったのですが、その中では、東京書籍と教育出版と帝国書院と日本文教出版の4社がやはり、歴史を捉える見方、考え方とか、その基本的なところを押さえた上で単元構成がしっかりできているという点で、共通しているよいところだと私は思いました。その中で各社、確認しようとか、説明しようとか、いろいろな押さえ方をページごとにやりながらという工夫を盛り込みながらやっていたわけですが、その中で、私は帝国書院の、先ほどこれは白石教育長もおっしゃったのですが、見開き2ページの、「〇〇時代を眺めてみよう」という、まさに見開き2ページの大きなイラストから考えていくというのはすごくいいなと思いました。ちょうど①から⑪まであるのですが、それがいわば時代ごとというか、ほとんどポイント、ポイントで入っていて、これが効果的な学びのアクセントになっている、主体的な学びにつながるものとして生きていくのではないかと思いました。さらにまた、「歴史を探ろう」という見開き2ページも時折入ってきて、これが今、いわば学びの深まりとか、さらなる広がりにつながるという点でも大変効果的なものかなと思いました。以上です。

折井委員 ちょっと個人的なお話になって恐縮なのですが、専門は英語なのですが、高校のときから一番好きな教科は歴史で、日本史で、いまだに時代物の小説を読むのが大好きなのですが、どうしてなのかなと思うと、本当に担当してくれた先生の力量に負うことが大きかったなと思うのです。それはどうしてかということ、高校の歴史ということ、本当にもう大学受験を目前にして、「いい国つくろう何とか幕府」みたいな、そういう感じの、とにかく覚え込むという、そういった授業になりがちです

し、本当にテスト対策も重要になってくるのですが、その中でも、時代、時代の施政者たちがどういう思いだったのか、そしてどういうずる賢いことをしたのかとか、そういったところのことですとか、一般の人たちの生活とか、思想だとか、すごく深く斬り込んでくれたのですね。なので、その時代にタイムスリップしたような、そんな経験ができる授業をしてくれていたのです、その先生の授業を思い出すと、ノートを見返すと、そのお話が全部よみがえってくるので、日本史が一番得意だったのです。一番頭に入るのです。なので、頭に入るようにするには、横串を刺すとありましたが、やはり流れが分かるということがとても重要なのだなと思います。ただ、その先生はとてもそれが上手だったということで、個人の力量に頼るようなものではなくて、やはり教科書として私たちが選ぶべきものは、そういった授業を、若手の人もベテランの人も、ベテランの人はうまく料理するでしょうし、新人の方は教科書に沿ってやることになるかもしれませんが、いずれにしろ、それがうまく活用できるような教科書選びが重要なのかなと思いました。

そう考えると、バランスがやはり大切で、1つの観点だけが優れているとなってくると、やはり偏りが出て、少し充実していない部分が手薄になってしまうということで、バランスがいいものと考えたときに、やはり帝国書院が一番かなと思いました。ただ、ほかの教科書もとてもよくて、例えば教育出版も非常にバランスが優れているかなと思いました。本文の字も大きくて、見やすく、資料も結構絞ってある。絞ってあるがゆえに見やすいですし、やはり歴史が好きな子ばかりではない、ちょっとアレルギーがあるような子も入りやすいのかなと思いました。

東京書籍は、教科書調査委員会でもお話があったのですが、報告書にもあったのですが、読んで分かる教科書というところで、実際、この休校期間中も教科書を読んでもくださいという課題も出たと思うのですが、その点で、そんな状況下でも活用できるような教科書かなと思いました。

山川出版社は、私も高校のときに使っていて、本当に素晴らしい教科書なのですよね。中学校の今回のものも、コラムも豊富で、とても面白い。ただ、中学校のレベルから考えると、やや詰め込みが多いなという感じ、印象を思いました。なので、先生方がどこまで扱いきれるのか、扱いきることが重要なのか、それともやはり絞ることが重要なのかというところで、迷いが出てくるのかなと思いました。

日本文教出版は、歴史的な見方ですとか考え方について、しっかりと示しているのですね。そこも好感を持ってました。

育鵬社の場合は、ちょっと物語風な記述なのですね。そこは私にとって、歴史を本当に遠く離れたものではなくて、すんなりと入ってくるような、そんな印象を持ちました。

学び舎についても山川出版と同様に、少し本文の量が多いなと思いましたので、先生方が授業をする上で、少し大変なのかなと思いました。

帝国書院に戻りますと、どの視点についても、やはり教科書としての完成度が高いなと思いました。写真と資料も豊富で、説明もシンプルで分かりやすい。あと、皆さんお話しされていますが、とにかくタイムトラベルするような気分で、歴史の展開とか特色を写真でというところは、これは本当に、子どもたちの興味を引くという点でも実質的に考えさせるという点でも優れているなと思いました。私、最後に決め手かなと思うのが、課題解決型にもすごく配慮しているのですよね。最後のまとめが、例えば、空所補充で、これは何々という川ですか。答えは何々ですという、そういったある種の空所補充的なものではなくて、議論の結果を書き込むことができる、そういった単語補充だけではない、自主的に学びを深めるという点で、非常に教科書として優れていると思いましたので、やはり皆さんもそういったご意見でまとまっていると思うのですけれども、私もやはり帝国書院が一番適切だと思いました。

對馬委員 私、最初にまとめが、いろいろ工夫があって面白い東京書籍もいいなと。それか帝国書院かどちらと申し上げたのですが、今、皆さんのご意見を伺っていて、私も帝国書院で異論はございませんので、それでいいかと思います。

教育長 ほかに意見、大丈夫ですか。それでは、社会、歴史的分野につきましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、社会、歴史的分野につきましては帝国書院と決定いたします。

庶務課長 続きまして、社会、公民的分野についてお願いいたします。

教育長 最近、中学校の教科書を読めば世の中が分かるという本が出ていて、ちょうどこの採択の時期で、教科書をずっと、全ての教科に目を通して、本当にそうだなと。中学校は義務教育ですから、中学校3年

までの義務教育のこの内容を身につけるということは、大人としての本来に教養なのだなどというのをつくづく今回感じました。そういうのを一番大きく感じたのは公民であって、読んでいても、私も、ああそうだったのだとか、そういうことなのだということがたくさんあったのが公民でした。経済のこととか、政治のこととか、社会保障のこととか、いろいろ書いてあって、ああ、こういうふうには世の中は動いているということをして中学生のときにしっかり理解をすることはとても大事なのだな。まさに社会の担い手を育てるといふ。これはまさに教育基本法の教育の目的第1条に書いてあるとおり、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成という、まさに教育の目的の1つですね。これがかなり公民というところに近づいたものなのだろうなと思って教科書を読ませていただきました。

やはり公民において、私は1つキーワードだなと思ったのは参画意識だったのです。例えば政治で、自分たちの手で、自分たちのまちをよりよくしようと参画していくとか、国際社会において、持続可能な社会の実現に向けた社会への参画意識だとか、そうした参画意識というのが1つキーワードになるなと思いながら見ていました。

18歳の選挙権については、前回の教科書採択のときにも、そろそろだという話になりました。現在実施をされて、先日、調査委員会の校長の話を知ったら、かなりこれは生徒もよく知っている内容なのだ。18歳選挙権。中学生はまだありませんが、高校に入ったら、高校3年になったら選挙に行く子も出てくるというのが現実ですね。かなり生徒たちは意識して、内容もよく知っているという話がありました。当然、選挙に行こうという教育ではありませんが、しっかりそういったことも、選挙の参加等について、教科書も紙面が割かれているなと思います。

それで、どこの会社にもあるのですが、物事を、何か課題にぶつかったときに、話し合っ合意していく。いわゆる対立したときに、妥協点を見つけて、納得解を見つけていくというページがあるのです。例えば東京書籍は部活動の体育館利用。いろいろな部活動が体育館を使うのだけど、重なってしまうわけです。どう合意していくか。それから帝国は、防災倉庫の設置、地域に設置するとき、どう設置していくか。こういう具体的、身近な話題を取り上げて題材にしている東京書籍や帝国書院というのが、非常に子どもたちにとって分かりやすいのではないかなと

私は思いました。

對馬委員 私も公民の教科書を読みながら、自分の時代にこういう勉強をしたかなと思ひながら、改めて勉強させてもらいました。非常にどの会社も身近な話題から学んでいけるようになっていて、そういう意味では、大変面白く書かれていたと思います。

教育出版などは写真や図版が多くて、興味、関心を大変引きやすかったですし、自習もしやすいなと感じました。

東京書籍の場合には、やはり写真や図版が多くて、ここは歴史や地理もそうだったのですが、まとめに非常にたっぷりと工夫がされているところがとてもよかったと思います。まとめる段階で、主体的、対話的な活動ができるような工夫がされていました。

帝国書院についても、実社会の動きが非常に分かりやすいようになっている教材が多くて、主体的、対話的な活動も意識されていますし、導入がやはり見開き2ページで、歴史や地理などと全部同じ構成になっていますので、そういった意味でも、生徒にとっても使いやすい教科書なのかなと思います。帝国書院が使いやすいのかなと感じました。

伊井委員 今、いろいろなことが報道されていることを思うと、本当にこの公民という言葉がすごく私には重く、すごく大切なことだったのだと感じています。子どもたちが学校に通っているときは、公民の教科書といっても、あまり本人たちも感想を言わないし、これほどまで今に生きている教科書としての重みを感じたことはなかったなと思っています。

そんな中で、東京書籍と教育出版、帝国書院あたりをしっかりと拝見させていただいたのですが、つくりとして、東京書籍は、いろいろな分析ができるようになっているのと、あとやはり話題がすごく豊富だなと感じています。「もっと公民」ということで、3.11からの復興、それから空き家問題とかにも触れていて、理由だけでなく、有効な活用方法についても考察を求め、前向きに捉えているなと思っています。「みんなでチャレンジ」では対話的な活動もできます。巻末の用語解説は自らの学びを深めることができるかなと思っています。

教育出版は、次の章に入る前に、これまでに学んだことを振り返り、次の章で学ぶ課題へのガイドがあります。さらに「学習のはじめに」ということで、章ごとに設定された見通しを持った学習ができるようになっています。巻末には、憲法とか法令集のほか用語解説もあって、学び

をやっぱり自分で深めていく、ちょっと自粛の期間がありましたけれども、そんなときにも生かしていけるのかなと思っています。

それから、やはり帝国書院なのですけれども、先ほどから何度も申し上げているのですが、やはり本文の周りにある資料とかが、すごくほどよいなと感じています。開いたページに、「よりよい社会を目指して」と書いてあって、また、裏のページの開きには、「防災・減災を通じた社会参画」と書いてあります。選挙権のある18歳に向けて、卒業するとあと残り3年となるところ、そこを明確に目指すところを表現しているなと感じています。それから、「Yes、No」「アクティブ公民」など、深い学びにつながる学習課題が豊富です。あと、「技能をみがく」という点では、役割演技などで理解をお互いに深めるような活動風景のページもあります。

そんな中で、東京書籍の公民では、例えば、第1章、「現代社会の特色と私たち」というところで、導入の活動として、ある市のまちの様子から、現代社会を眺めてみようという課題があるのですけれども、ここではYチャートという分析の仕方を使って、第1章の探求課題を見つけさせています。多くの資料があり、グラフ、写真を配置し、本文を進め、「もっと公民」「公民にアクセス」というコーナーでさらに学びを広げて深めていますので、東京書籍も結構、分析力、それから生徒さんたちが使っていくのに、やはり充実した形で使っていくのかなという印象を受けました。

帝国書院では、今回、東京書籍と偶然に同じような絵で、章の初めに課題を見つけていくという取組があったのですけれども、歴史の章の初めにあったような、先ほどから出ていた絵に、やはり質問がついていて、ああ、こんなところでこんなことが起こっている。どこにあるのだろうと、自ら課題を見つけられるようになっていきます。やはり「アクティブ公民」というところで対話的活動も行い、章の学習に振り返りのページがあって、学んだことを確かめて、次の章への準備に取り組む形式となっています。

教科書調査委員の先生方の話の中に、地理・歴史を学んできて、ある意味、出口となる公民の授業は、卒業後3年で選挙権を持つことになる生徒たちにとって、集大成となる教科だなど私は感じております。そのような、出口としての学びを保障していくようなお話が先生方からもあ

りました。

地理、歴史と来たときに、公民がいろいろな会社がありますので、それをどう扱っていくかには議論もあろうかと思いますが、歴史と地理を学んでいく上で、微妙な文言とか言い回しとかが異なると、学んでいく生徒の中で少し難解に思ったり、誤解があったり、それから混乱することも考えられるので、これまで地理、歴史で帝国書院のものを選んでいる点からしても、バランスの点からしても、帝国書院を推す形でいいのかなと思っています。

折井委員 伊井委員から今、お話がありましたように、結局、社会という科目の中での出口の科目なのだと。なので、話合いをさせたいというところで、そういったことがしやすい、対話的な学習がしやすい教科書という観点から見てきているのですけれども、話合いができる場が、もちろん本論というのでしょうか、そこでもするのだと思うのですが、やはり一番しやすいタイミングというのが、導入とまとめの部分だと思うのです。先ほど、違う科目でも言いましたが、導入がすごくうまく生徒の心をつかむ、興味・関心を引くというところはすごく重要である一方で、やはりちょっと、時間がかかり過ぎる場合は、そこをちょっとやり切れなくなってしまうというところで、私は東京書籍の、本題と関連のある見開き。結構、見開きなので多いのですが、導入ページがとても興味を引くなと思いました。ただ、やはり、時間がかかるものなのかもと。ただ、本題ととても関連性の深いような導入をしているので、とてもいいと思いました。

教育出版も導入が長めなのですからけれども、私はどちらかというと、せっかく公民を学ぶので、学んだ後に知識をある程度得た上で、それについての討議をするといったことが、やはり深い学びになるのかなと思いましたので、その点で、導入がちょっと本題からずれる。身近なトピックであるというところで、生徒たちからすると、話しやすいことでもあるのだと思うのですが、私はどちらかというと、ディスカッションは知識を入れた上でと思いました。

帝国書院の場合には、教科書調査委員会の報告でも、グループワークですとかディスカッションにつなぎやすい教科書であると。調べ学習がしやすい資料、写真も豊富で、新鮮なものが多いというところと、あと何よりも章のまとめが、とても各社特徴的なのですね。同じように見開

きがあったとして、同じように何か対話的なものが入って、知識を確かめるようなものがあったとしても、より深い議論ができるような、ディスカッションができるようなものとなると、帝国書院がやはり1つ抜けているのかなと思いましたので、私も帝国書院がやはり一番いいのかなと思いました。

久保田委員 この各社の公民の教科書を見た中で、やはり東京書籍と帝国書院、この2つがよくできているなど私は思いました。東京書籍の場合には、「持続可能な社会の実現に向けて」という、まさに表紙スタートから裏表紙の底まで統一されていて、その中に単元がきちんと位置づけられているということ、これが大きな特徴であったと思います。

実は帝国書院も同じように、「よりよい社会を目指して」からスタートして、裏表紙、そこで完結するのです。そういう意味では、本当に統一性のある構成になっているところが、この2社がよかったなと思ったところです。

その中で、今、折井委員も言ったところで、東京書籍の導入の見開き2ページのところで扱われている活動、そのテーマの中で、例えば、「ちがいのちがい」を考えてみようとか、誰を市長に選ぶとか、コンビニエンスストアの経営者になってみようとか、どちらかという受け気味のテーマが今回の特徴なのです。それに対して帝国書院の場合は、割と直接、学習課題につながっていくような、40年前と今の社会の比較とか、あるいは、暮らしと憲法の関係とか、あるいは暮らしと経済。最後は持続可能な社会というところで、割とダイレクトに導入に結びつけていくところが、2社の割と対照的な入りかなと思いました。

しかも今回、帝国書院の場合には、章ごとの振り返りの見開き2ページがあり、それを受けて、次の章へ向けた見開きの2ページがあるという流れでずっと通してあるのです。この次の章への見開き2ページというのは、言ってみれば、その新たな単元の導入の見開き2ページで、これはやはり非常にうまいテーマ設定、つくりになっていると思いました。

そして最後の章、一番最後、まさに出口の部分で、持続可能な社会を目指しての課題レポートのまとめが、やはり出口にふさわしいというか、中学3年生、社会科にふさわしい課題レポートで締めくくっているというのは、とてもすっきりとしていて、いいなと思ったところです。そんなところで、最終的にどこかと考えたときには、ほかの委員の皆さんお

っしやったように、帝国書院でいいのではないかなと私も思いました。
以上です。

教育長 先ほど私、東京書籍、あるいは帝国書院がというお話ありましたが、今、皆様方のご意見を聞いていて、帝国書院で私もいいのかなと思いました。

ほかにご意見いかがですか。それでは、社会、公民的分野につきましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、社会、公民的分野につきましては、帝国書院と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、地図についてお願いをいたします。

久保田委員 地図帳は2社でした。帝国書院の場合には、今回初めて、縦長の大判というか、そういった地図帳で出てきました。開いてみると、一目瞭然というか、非常に地図が見やすい。これも単純明快にそのとおりですね。しかもこれは世界全図、日本全図もそうですし、世界の各州の地図もそうですし、日本の各地方の地図もそうですね。本当に見違えるように見やすくなっています。さらに、資料とか、写真とか、そういったものを入れ込んでいくときにもたくさん入るというか、レイアウトがとてもいいですね。これが今回の大きなポイントだと思いました。この辺は、教科書調査委員会の報告でも、あるいは区民アンケートの中でも出されていたとおり、本当に大判で見やすいと。そのとおりだと思います。

それから、東京書籍の地図帳の場合には、よかったのは、最初のところで、地図帳の活用方法を示した後、現代社会の課題を解決するために、SDGsを知ろうというのが見開き2ページできちんと示されているのです。しかも、その後さらに見開き2ページで、現代的な諸課題、紛争、難民問題等々、世界各地の16枚の写真をちりばめて位置づけているのが、これは今までにない描き方で、これはとてもすばらしいなと思いました。それから、日本の各地方の地図の後に必ず入っている、〇〇地方の自然環境の鳥かん図、断面図が非常によくできています。とても見やすくて分かりやすいと思いました。

そんなところで、最終的に2社を比較した上で、冒頭申し上げたように帝国書院の地図帳でよろしいのではないかと私は考えました。以上で

す。

折井委員 私も、やはり帝国書院を開いた瞬間に、本当に一目瞭然という意見に賛成です。私は見やすいというのが、教科書調査委員会で説明があったのが、表示できる範囲が変わっているのですと。縮尺は同じ。でも大判になった分、広い部分が入るのだと。例えば、地中海が陸地で囲まれていることが分かるのは大判だからなのですよという説明があったときに、本当に合点がいったのです。そうか、地図はやはり広く見られるというのは、本当にメリットも大きくて、その大きな学びにつながるのだということを知りました。見やすくて、そして学習上、指導上も、非常に優れているという点で、私はこの帝国書院でいいかなと思っているのです。

對馬委員 先ほどからお話が出ているように、帝国書院は判が大きくなってとても見やすいということで、判が大きいということは、子どもたちにとって物理的にどうなのでしょうかとのお話を伺ったときに、教科書調査委員会の先生方のお答えは、特にマイナスのことはありませんというお答えでした。ロッカーにも入りますとか、カバンにも、ほかにもいろいろ大きなものも入るので特に問題はありませんとおっしゃっていただきましたので、でしたらやはり、大きな判で見やすい帝国書院を使ってみたらどうかなと思います。

伊井委員 一言だけ。東京書籍の地図も、グラフや資料はまた帝国書院のものとは違って、すごく工夫されているなという感を持ったのは事実です。でもやはり、鳥かん図で地図のつくりが大きくなったら大きくなっただけ、地図もそうですが、グラフや資料もやはりそれだけ見やすくなっているような教科書調査委員会の先生方からのお話もありました。なので、帝国書院のものを選べたらなと思っております。

教育長 私は地図を見るのが大好きで、子どものころから。地図はもちろん、教科書として何か調べ学習に使うのもあるのですが、読み物として見ているのがとても楽しいのです。今でも好きなのですが。もちろん、小学校のときも地図帳は配られていて、情報量は小学校よりも中学校のほうが圧倒的に多いのですが、地図を見ていると、いろいろなことに気づいていくのです、教えなくても。例えばいろいろな図法、メルカトル図法だとか、グードだとか、いろいろな図法があるけど、地図によって全然違うなとか、面積が違うなということだったり、あとは世界

の国を見ていると、国名は大体赤で書いてあるのですが、黒で書いてあるところは何なのだろうとか、領土に色を塗っていないところは何なのだろうとか、いろいろなことに気づいていくのです。先ほどお話のあった縮尺だとか。まず、読み物としての地図と見たときに、私は圧倒的に帝国のほうが面白いな、情報量も多いなと思いました。

もちろん資料で調べていくときには、中にある、巻末にあるような統計資料とか、そういうのはとても大事で、新しいものであることはどちらもそうなのですが、子どもたちに、ぜひ授業で使うだけじゃなく、本当に読んでもらいたいなと、私なんかはすごく思っています。

帝国のところに、いわゆるユーラシア大陸のところに日本があるのだけど、それを南北ひっくり返した地図があるのです。日本列島というのは、ユーラシア大陸の下にぶら下がっているように見えるのだけど、南北をひっくり返して見ると、ユーラシア大陸の上に覆いかぶさっているのです。例えば、大陸が外へ出ていくときに、日本というのが一番上にあるのです。そういう、地球というのは、たまたま地図は南北を、北を上にして、北半球と一般的にやるけど、そうじゃない、いろいろな見方をすると、いろいろな、これは地図だけじゃなく、歴史にも、地理にも、それから公民にも、いろいろなところにも発展して見られる、そういう見方を変えられるというのが、帝国にあったこの地図の1カ所ですけど、いいなと思いました。前はたしか教科書にもあったような気もしたのですが、ちょっとそこは定かではありません。私は帝国でいいかと思います。

ほか、よろしいですか。それでは、地図につきましては、帝国書院と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、地図につきましては帝国書院と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、数学についてお願いいたします。

伊井委員 数学という教科は、中学生になると、小学校のときの算数から数学になるということで、どんな違いがあるのだろうと、経験からもそうですし、お子さんによっては緊張感を持つ科目でもあるのかなと思います。そういう意味合いもあり、まずは1年生の教科書を開いてみました。学校図書と啓林館、数研出版、日本文教出版は、「正の数、負の数」で始まっています。大日本図書は数の見方、素因数分解ということで始

まっています。東京書籍と教育出版は、「整数の性質」という項目で始まっています。

その中で、教育出版の教科書で、表紙を開いたページにこんなことが書いてありました。算数から数学へ学びの世界を広げよう。数学は算数の学習の基礎の上に数や図形など範囲を広げて、より筋道を立てて考えていく教科です。これまでよりも難しくなるのではないかと心配しているかもしれませんが大丈夫です。ここがすごく大事で、大丈夫ですと書いてありまして、皆さんが一步一步着実に学習を進めていけるようにこの教科書を作成しましたと書いてあったのです。私も久々に数学をやってみようかなという気持ちになりました。

実を言うと、教科書のお話をしたときに、對馬委員はもっと難しいところをなさっていて、ここに実力の差が出てしまったなと思っているのですが、疑問を大切にしよう、問題を見出そう、問題をつかもう、自分の考えを持とう、友達の考えを知ろう、みんなで話し合おう、振り返ろう、深めようという、解決の前後の学習のプロセスを大切にすマークを使って、キャラクターが効果的に登場しながら導いていく形式です。また、例えば、4章に方程式、5章に比例と反比例というところで、章を紹介するページには、写真つきの内容説明があって、導入としてもとても捉えやすいなと感じました。

その他の特徴として、初めの整数の性質で、構成として、次に正と負の数に入っていくプロセスとしても分かりやすいなと感じています。説明の語句の理解しやすいものであることも含め、1つずつスモールステップで進んでいくため、自主的活動にも向いているなと感じました。練習問題の内容が、身の回りの問題場面を取り上げているものが多いため、生徒が興味・関心を持って、楽しみながら学習を進められるよう工夫しています。また、例題の後に、確かめと、それから問いとして、2段階の問題を配置しているため、生徒の持っている数学の力の段階にも合わせられるのではないかなという気がいたしました。教科書の挿絵が割合豊富で、吹き出しが効果的に使われて、問題解決へのヒントにもなっています。それから、巻末に正六面体などの展開図が付録として切り離せる仕様になってついていることは、実際にそういうものを切り離して作ってみると、捉え方としてすごく分かりやすいのではないかなと思いました。世の中でよく使われている数にはどんなものがあるのというこ

とで、「Let's Try」というくくりで、マイナスのついた数を探してみようとか、そんなクイズ的な楽しさもあると思います。

それから、気象予報士の方のお話載っていて、この点は、教科横断的で、キャリア教育としても捉えられるのではないかなと感じました。これは、文章中に書いてある表記なのですけれども、例えば、文字と式に入る前ページには、文字と式を学習する前という形で、小学校3年、4年で学習してきたことを振り返り、関連づける記載があります。学びのマップとして、小学校で学んだことが振り返りもできるようになっていますので、このように小学校で学んだところの表示もあって、生徒が安心して取り組み、解決に向かう道筋が1つ1つ丁寧で、基礎・基本の定着にもふさわしくて、数学もレベルがいろいろあると思いますので、多くの生徒を導きやすく、自分でも学びやすいという点で、私は教育出版が望ましいのではと考えました。以上です。

久保田委員 今、伊井委員から教育出版について詳しくお話がありました。私は東京書籍の教科書が面白いと実は思いました。といいますのは、例えば1年生の最初に、0章として、算数から数学へという、こういった0章が設けられて、言ってみれば、数学嫌いをなくすというか、数学の入り口の段階で、はいどうぞ、いらっしゃいみたいな感じで位置づけられている、ここが大変いい試みだなと思った次第です。その後、実際、教科書のつくりとしては、必ず学習課題が「Q」として、緑囲みで示されて流れるようになっていて、とても分かりやすいのです。そして、ずっとやっていくと、途中でベージュ色の囲み矢印が出てきて、また「Q」ということで、新たな問いを投げかけて、さらに学習を踏まえた上で発展させていくといった流れも、教科書を1人で見ていくだけで、学んでいくだけでも分かる、そんなつくりになっていてとてもよいなと思った次第です。以上です。

對馬委員 数学、7社ございまして、それぞれに特徴があったと思います。教科書調査委員会の報告のときに、中学生が一番数学でつまずきやすい箇所はどこですかと伺ったら、関数のところだと校長先生がおっしゃいましたので、関数のところで比べてみたのですが、啓林館とか数研出版は説明されている文章がなかなか難しい。それをまず理解する国語的な部分でも、ちょっと難しいなと実は感じました。数学の文章題とか、文章の説明は、やはり国語力にも関係してくると思うのですが、やはり

その部分で、丁寧に説明してくれている、あるいはスモールステップで少しずつ、何段階かで説明されているというのがやはり分かりやすいのかなと思いますのと、問題解決のプロセスがきちんと書かれているのが教育出版の教科書だったのかなと思います。数学は積み上げていく教科書だと思うので、やはり振り返りがあって、学びに入ったときに、今まで習ったどんなことと関連があって、これからやっていくことは、こういうステップでやっていくと分かってという、その順番はとても大事だと思うのです。

それから、今回のコロナのように、自宅学習が増えていった場合に、やはりある程度、問題数、例題数というのにも必要になってくるのかなと思います。もちろンドリルであったり、いろいろなほかの学びの広がりには当然あると思うのですが、教科書でもある程度、問題を解いていくことができる。杉並区の場合には習熟度別で数学は、中学校は学習していると思いますので、割と簡単な問題から、ちょっと発展的なものにトライしたい子まで、幅広く問題があってくるとありがたいなと思うので、そういった意味では、教育出版の教科書はいいのかなと感じました。

折井委員 今、對馬委員からお話ありましたように、中学校で習熟度別で、実は小学校も少人数をしているということで、できる限り、その子の今の学びの状況に合わせたクラス、授業運営をしているのだと思うのですが、そうだとすると、やはり算数から数学はとても大きなハードルで、子どもたちが、算数まではまだよかったのだけど、数学からはちょっともうきついのということが起こり得る科目なのかなと思うのですが、だからこそ、私は3つの観点に注目をしました。

1つ目が、数学というものが、例えば公式を暗記したりだとか、計算問題をひたすら解くというような、無味乾燥、数をいじくるだけの、それだけのものではないのだと。数学の世界は日常生活と実はすごく密接に関わりがあるのだよというところから、意欲・関心を引き出しているかというところが1点目。

2つ目が、1つ1つ、先ほど休校になってしまったときに、自宅学習がということがあったと思うのですが、本当にそれは現実問題として突きつけられている今、やはり理解のプロセスが丁寧に書かれているもの。本当にできるお子さんだけ、数学大好きですというお子さんだけだったら、そんなところなくて、もっと問題が欲しいということもあり得るか

と思うのですが、やはり公立校ですので、数学が好き、あまりというよ
うな、いろいろなお子さんに対応できる、理解のプロセスが丁寧な教科
書がまず2つ目に大事だということ。

その学びがうまくいくために、そして途中でつまづかないために。得
意なお子さんだとしても、ここの既習事項を忘れてしまったとか、うろ
覚えだということも、もちろん多々あると思いますので、3つ目の観点
としては、既習事項をちゃんと踏まえた構成になっているかというこ
ろで見ていきたいと思ひまして、日常との関連性ということていくと、
東京書籍、学校図書、そして教育出版がとても上手に数学的な活動を入
れたり、日常生活と数学を関連づけているという点でいいなと思ひまし
た。どの社も、やはり日常生活と絡めたいという意欲もあるところす
ので、理解のプロセスに関して、どれもとても丁寧だなと思ひました。

ただ、既習事項をどう扱っているかは、前の学年にやったことを忘れ
てしまいがちな生徒からすると、既習事項がきっちり、これだけ分か
ってれば大丈夫といったことも、教科書に載っているか載っていない
かは大分大きな違いで、もちろん前の年の教科書を出してくればいいの
です。でも、いろいろなほかの勉強があったり、もしくは苦手意識を持
っている中で、そこで確認ができるということは、やはり教科書として
いいつくりだと思ひまして、それがしっかりと1ページ、きっちりとあ
るのが教育出版ということで、私の考えた3つの観点からすると、やは
り教育出版が一番、どの観点においてもすごく丁寧にやっている、かつ、
数学的な活動を取り入れた導入とかもあって、本当に全てにおいてとて
も丁寧な目配りがされた教科書だなと思ひましたので、私、東京書籍も、
教科書として導入の仕方がとても興味・関心を引く問いというところで
引かれる部分はありますが、やはり既習事項の確認がちょっと少ないか
なというところで、高いところでバランスがとれている教育出版を推し
たいと思ひます。

教育長 まだまだ誤解をされている部分が実はあるなと思ひているのが、
数学イコール、計算、いわゆる算数でもいいのですが、計算ができるこ
とが、算数ができること。計算できることが、数学ができること。私は
誤解だと思ひのです。誤解が、どうしても、これは教員だけではなくて、
世の中にあるのだらうなと思ひます。もちろん、算数、数学、中学校は
数学で、数学はもちろん計算ばかりしているわけではなくて、図形領域

があったり、論理があったり。でも、物事をどのように考えたらいいかを学んでいるのが数学であって、その1つの形が方程式であったり、関数であったり、文章であったり、いろいろなものなのです。そういったことを考えると、練習問題がたくさん入っている教科書だとか、いろいろあるのですが、計算がたくさん入っている、練習問題として。これはもちろん、必要なものは必要だと思いますが、ちょっと違うのだろうなと私は思いました。

算数から数学に中学1年生で変わり、算数は、とっても苦手な子と、とても得意な子と二極化されている教科で、でも、中学校に行ったら、よし、僕は数学を頑張るよとか、そういう子はたくさんいるわけです。この前、調査委員会の校長たちに、中学1年の最初の授業で、中学校の数学の先生はどういうふうに行っているのですかと質問したら、もちろん、算数から数学に変わるところを丁寧に説明したりしていますという話と、大丈夫です、安心してください。杉並の先生は、そういうところをしっかりと行っているのですという校長から力強い言葉を頂いたので、先ほど伊井委員が、大丈夫ですというメッセージがあるとありましたが、杉並の先生たちはしっかりと行っているなと思いました。

東京書籍の表紙の裏のところに、数学の世界がどんどん広がると書いてあって、0章ですか、私もとってもいいなと思うのですが、今まで小学校のときは、小さな数から大きな数が引けませんでした。でも中学校に行くと、それが引けるようになるのです。いわゆる数の拡張、演算の拡張、様々なものを今まで持っているものから、一回り外へ広げていく、そういったものが数学なのだよと、すごく分かりやすく書いてあって、こういう東京書籍のところはいいなと思いました。

あと、さっき計算だけじゃないと言いましたが、学校図書はレポートのところに結構力を入れて書いているのです。数学的表現力とも言えますが、いわゆる数学を通して学んだことをレポートに書く。レポートというのですか、何か書いて、表現して出していくと。それは答案ではなく、人に分かるようにやっていく。そのレポートの作成の仕方、発表の仕方、レポート例などが、とても丁寧に書いてある。これは教育出版にもあるのですが、学校図書のここの部分はとても丁寧でよかったなと思いました。

それから、先ほどもちょっと話がありましたけど、啓林館と数研出版

の題材は、やはりちょっと難しいなと思いました。実は1年生の比例、関数の1つ手前です。比例のところ、他社は、水槽に水を入れるとか、プールに水を入れて時間と水面の高さが比例するというのをやっていますが、啓林館は、1枚の紙から四隅を切り取って、箱を作るというのです。切り取る大きさから、あと何が変わるかというのですが、これは、実際やらせれば、もちろんある程度分かる子はいるけど、これを頭の中だけで考えてやるのはとても難しいなと思いました。数研出版は、京都のまちをバスで移動するという座標の考え方でやるのですが、これもやはりイメージしづらいなというのをすごく感じました。

教育出版は、先ほど皆さんがいろいろご意見ありましたけど、いわゆる計算だけでなく、物事をどう考えていったらいいのかというのは非常に丁寧に書かれているなと思います。一番最初に、数学を考えるときに、こう考えましょうというページがあって、折り込みページがあるのですが、そこには例えば、具体的に幾つか調べて決まりを見つけようとか、帰納的な考え方ですね。知っていることと同じように考えようという類推の考え方。いろいろなのが書いてある。でも、ここに書いてあることは小学校から全く同じことをやっているのです。つまり数学的な考え方というのは、中学校で初めて出てくるわけではなくて、小学校のときから同じように積み重ねてきて考えられてきている。まさに、小学校のときに習ったでしょうという世界なのです。でも、これは数学だけじゃなく、社会科だってみんな同じだと思います。

教育出版は、その考え方が、折り込みが開くのです。開くということは、どういうことかということ、どこの単元を学習しているときも、それを開いておけば目に入るのです。物事を考えるときに、ああ、最初に具体的に幾つか調べて決まりを見つけよう。1のときどうかな、2のときどうかな、3のときどうかな。じゃあ10のときどうかなと考えることができたり、今までこんなふうな三角形でやったから、四角形のときも同じように考えてできるのではないかとか。類推ですね。そういったヒントが頭の中になくても、紙を見ることができ、教科書を見ることができ。これはすごく大事なことだな。そういうことを繰り返していくときに、数学の問題だけじゃなく、世の中の問題を考えていくときに、こういうふうな物事を考えていったらいいという習慣というか、技能とは言いませんが、そういう見方、考え方が身につけてくると。これはとて

もいいということで、私は教育出版がいいかと思います。

よろしいですか。ほかにご意見ないようでしたら。

それでは数学につきましては、教育出版と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、数学につきましては、教育出版と決定いたします。

庶務課長 それでは続きまして、理科についてお願いをいたします。

對馬委員 理科は5社ございまして、理科だけでしょうか、5社、割と判が縦に長かったり、幅が広がったり、かなりバラエティに富んでいるなという印象がまずありました。どこも共通して、写真が大きくて美しいというのが非常に印象的でした。判の大きさに関しては、区民アンケートの中にもやはりどうなのだろうかと。実験のときに邪魔じゃないだろうかということがございましたので、教科書調査委員会の際に校長先生に伺いましたところ、実験のときには、教科書は机の上には出さないで実験することになっているので、特に判の大きさは問題にはならないというお答えでしたので、教科書としてどうかということで見てまいりました。

写真というのは、やはり理科の場合、非常に大事な教材、大事な資料になってくるというお話でしたが、どこも写真については非常にきれいな、いいものが使われているなと思いました。あとは事故防止、実験のときの事故防止などについても見ていったのですが、これもきちんと書かれていて安心できるものでした。

やはり東京書籍か大日本図書、このあたりがいいかなと思ったのですが、東京書籍は学びの流れが分かりやすいつくりになっているなと感じました。それから対話の具体例も示されていますので、主体的、対話的な学びにも非常に役に立つと思いました。

大日本図書の場合には、杉並区の済美教育センターですか、理科の出前授業を行っているのですが、これと順序がほぼ合致しているようで、非常に使いやすいと。合致していない場合には、順番を入れ替えたり、学校現場で工夫が必要だというお話がありました。

あと、大日本図書の場合には、各学年で重ならないような工夫がされている。1分野と2分野とうまくずらしてくれているということで、中学校の実験室の数が限られているので、あまり重なってしまうと、実験

のときに場所がないというお話を伺いまして、それが、大日本図書の教科書の順番が非常に使いやすいというお話がありましたので、それも大変いいことだと思いました。それから発展的内容に関しても、こちらが一番多く扱われていたと思いますので、そういった点でも、東京書籍もいいのですが、大日本図書にしてみるのもいいかなと感じました。

久保田委員 東京書籍の場合には、今回、縦長の大判になったということで、そのことによって、例えば実験の手順が、写真とかイラストが、非常に収まりがよいというか、分かりやすくできているなというのが感じたところです。やはり実験・観察が丁寧に描かれていて分かりやすいというのが、理科の教科書では大切なことかなと改めて思いました。

そして大日本図書については、今、對馬委員からもお話があったように、実際に、探求の進め方とか、また、観察・実験の計画、やり方等含めてきちんと描かれていて、これも使いやすいというのは私も感じたところです。先ほど、教科書調査委員会の報告の中でも、第1分野と第2分野の学年ごとの組み合わせ、バランスの取り方は、ああ、そういうことかと、聞いて初めて私も分かったのですが、その辺も工夫されているところなのだなということがよく分かりました。以上です。

伊井委員 やはり私も東京書籍の新しい判についてはちょっと興味があったので、先ほど對馬委員がお聞きになられたということで、実験のときは、そういう教科書の扱いなのであれば可能なのかなと見ながら、大日本図書のものも含めて読んでいくと、本文の押さえ方が、大日本図書はとても丁寧で、実験の流れと、それから本文の流れがすごく連動しているというか、分かりやすくなっています。本文で、こういうことが、この実験の結果こうなりますから、次にこういう実験をやりますよというような教材としての流れと、それから実験の流れがすごく結びつきがあって分かりやすいなと感じました。単元の説明、実験の流れなど、また、そこに使われる語句も分かりやすくて、分量とか内容もほどよいため、時間内で学習がスムーズに進むような構成になっていると配慮されているのではないかなと思います。

出前授業に私は何回か伺ったのですが、この時期に3年生のこの実験というのが一覧表になって調整されているのですが、それが今まで、こういう形で調整しながら、ご苦労がある中で出前授業をされていたのだということを改めて感じました。杉並区では、専門家の方々が各校に準

備段階から理科室に入って、それで全部準備をして、安全面も考えながら、用具のことも考えながら理科実験をしてくださっています。そういう意味も含めまして、大日本図書の理科の教科書は意外と使いやすいのかな、それから、そういった授業の組み立てもしやすいのかなと感じました。以上です。

折井委員 本当にもう何年も前、7、8年くらい前になるかと思うのですが、先生方の小さな研究会、勉強会、発表会、研究発表だったのですが、そこで比較的若手の理科の先生が、とある実験を、子どもたちにどうやって、一番効果的な実験方法は何かといろいろなパターンで試してみて、自分としてはこれがいいと思いますというようなことを発表して下さったときがあって、その中であったのが、やはり失敗から学ぶことも当然、子どもたち、成果はあるのですが、目に見える形で結果が出るということもやはり大切ということで、その中で、授業の時間内に全てを終わらせることの苦勞というお話しをされていたのが、本当に随分昔ですがありまして、昔ですと、理科は2コマ連続ということもあったのが、今は1コマがほとんどで、となってくると、やはり実験を途中でやめるといったこととか、ちょっとうまくいかない、もうあとはできませんといったことが多発しないような、そういった教科書も大事なのではないかと思います。

その観点から言いますと、例えば教育出版は、時間内に実験とか観察に取り組めるようなコンパクトな。コンパクトというのは、悪い意味ではなく、すごく精選された内容になっているのです。なので、そういう点でいいかなと思いました。やはり先ほどからお話に出ています大日本図書の、時間内に実施できるような内容になっているということがよい点だと思いました。私はどちらかというと、教育出版と大日本図書、どちらかがいいなと思ったのですが、大日本図書の場合には、そこでとどまらないのです。

つまり理科は、実験をして、結果を見て、それで終わりじゃないというところがすごく明確に打ち出されていて、既習事項を基盤にして課題を見出すところで、実験と観察を通じて探求するという、科学的な理解を深める、探求するというところをすごく意識したつくりになっているところが極めて優れているなと思いました。実験もうまくさせるけれども、そこにとどまらない理科的な、先ほどの数学的な考えではないです

が、科学的な考え方を深めるという点で、とても優れた教科書だと思います。また出前授業と実施時期が一致しているという点でも、運営上もとてもいいと思いますし、あらゆる点でやはりレベルが、私たち杉並区にとってもいい教科書なのではないかなと思いましたので、私は大日本図書がいいのではないかと思います。

教育長 世の中が進歩してきて、科学とか理科ですね。科学がなかなか感じにくくなっている日常生活なのだろうなど。これは小学校で理科を教えていてもそうだし、中学でももちろんそうだし。例えばお風呂のお湯。昔は子どもが当番で、例えばお風呂の火をつけたりして、お湯が沸いたかどうか見に行っていて、見に行っていて、熱いと思ってかきまぜてやって水になったという経験を持っているのです。そうすると温めるものは、火をつけて温めると上から熱くなるというのを、別に理科で習ったわけではないけど知っていたというのが事実。あと最近、火がない家、いわゆるオール電化。つまりコンロが家にない。炎が家にないという家は決して珍しくなく、そうした中で、日常でそういう科学とか、そういうものに触れ合うというのが、やはりどうしても少なくなっているのだろうなど。これは杉並に限らずそうだと思います。

杉並区では、そうした子どもたちの実態とか、いろいろなことを考えて、例えばサイエンスグランプリだとか、サイエンスフェスタだとか、科学に関する様々な取組を行っています。これは昔、杉並区は小学校で科学教室というのを土曜日の午後やっていた流れもありますので、そうしたところから、理科、いわゆる科学に対して興味・関心を非常に高めてきているのが区の実態であります。

サイエンスフェスタとか、サイエンスグランプリとかの作品を見ると、大まかに2つなのです。まず1つが、身の回りの不思議について調べているもの、あるいは研究しているもの。2つ目が、学校で勉強したものの発展なのです。子どもたちというのは、学校がきっかけになって、それをもっと調べたいと思っているのと、あとは学校で習っていないけどちょっと見たもの。そうすると、杉並区の子どもたちの実態を考えたときに、そうした発展的な内容というのがある程度教科書の中で扱われて、それは定時の授業の中で行うものではないかもしれないけど、子どもたちがパラパラと見て、面白いなと取り組めるものは必要だなと私は思っています。

東京都の教科書の資料を見ると、発展的な内容が一番多いのは大日本図書なのです。一番少ない会社の倍以上入っているのが大日本で、これが5社で一番多いのです。そう考えたときに、やはり私も、教科書として現行使っている東京書籍も非常にできもいいし、写真もいいなと思ってはいるのですが、今回、発展的な内容を少し取り上げて、子どもたちが、より一歩進んだ学びのできる大日本にするのもいいのではないかなと思います。

對馬委員 最初に私も、東京書籍か大日本かと申し上げたかと思うのですが、今、教育長のお話を伺って、やはり杉並の子どもたちの学びには大日本図書がいいのではないかと感じました。

伊井委員 大日本図書のところに、「科学のあしあと」というところがありまして、いろいろなページにちりばめられているのです。例えばフランクリンが1706年から1790年の人ですよとあって、そうするとそこに、日本は1776年にエレキテルを平賀源内が修復したと書いてあったり、オームが1789年から1854年の間に生きていたのですが、1837年の大塩平八郎の乱がありましたよということ、日本の出来事に結びつけて年代がついているのが面白いなというのと、先ほど、教育長のお話にもあったのですが、「くらしの中の理科」ということで、体組成計の説明とか、階段のスイッチの回路についての説明が出ているのなどもとても面白いし、興味・関心が引かれるなと思いました。

教育長 ほかがご意見よろしいですか。

それでは、理科につきましては大日本図書と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、理科につきましては大日本図書と決定いたします。

それではここで、一時休憩をしたいと思います。あちらの時計で約10分、3時12分まで休憩としたいと思います。

(休憩)

教育長 それでは、ただいまから審議を再開いたします。では、庶務課長、お願いいたします。

庶務課長 それでは、引き続きまして、音楽一般についてお願いをいたします。

折井委員 学習指導要領の配慮事項というところを抜いてきたのですけ

れども、中学校の音楽は、表現や鑑賞を行うことだけが目的ではないと。音楽的な見方、考え方を働かせること、生活との関わりに学ぶことというところが書いてありました。そういった観点からまず見ていったのですけれども、教育芸術社はその点がとても手厚いなと感じました。例えば、曲の構成を自分なりに考えて、それをみんなで話し合うといったような活動が、本当に何回も何回も出てくるのですね。そのような活動を通じての主体的で対話的な学びができるのではないかなと思いました。

一方で、教育出版のほうも当然、そういった活動はあるのですけれども、そういったのはどちらかというと少なめで、その分、創作分野が増えているという印象を持ちました。また、扱っている、楽譜の載っている曲数がとても多くて、その点では、杉並区は合唱がとても盛んですので、その点で今後の学習活動の展開に対応できるのではないかなと思いました。両方ともとても工夫された教科書と思いますけれども、どちらかというと、主体的な学び、対話的な学びという観点からすると、教育芸術社のほうがいいのかと思いました。

教育長 音楽の教科書に求められるものは何かなという。先ほどの折井委員の話につながるのですけれども、音楽の教科書は歌集ではないと。校長先生方に聞いた、やっぱり考える力を育てるための1つのきっかけになるものでありたいと。じゃあ、音楽において考える力というのは何なのだと。何をどのように考えるか。幾つか教科書を見ていくと、まず1つが、多様性というのは音楽だけではなく何でもそうですけれども、音楽の多様性というのは非常にあって、そこから考えさせることができると思っています。日本の音楽、外国の音楽、日本の音楽の中にも童謡があり、雅楽があり、民謡があり、外国の音楽の中にはアジアの音楽だとか、ヨーロッパの音楽だとか、ポピュラー音楽だとか、いろいろなものがあると。そういう多様性に触れて物事を考えていくということ。

それから、もう1つ、これ大事なのですよとちょっと話を聞いたのが、著作権とか、そういうことについても大事なのだと。これは教科書に書いてあります。最近、音楽を簡単にいわゆるダウンロードすることができる。ダウンロードした電子データをそのままほかに使うことができちゃったりする。最近ではガードがかかっていたりしていますけれども、そういったところを学ぶというのも音楽では大切なのだという話を聞いて、なるほどなと思いました。

今の話を聞いて、音楽の多様性というところと考えるということを見たときに、教育芸術社に『ジョーズ』のテーマ、これはすごいなと思ったのですが、今の子どもたち『ジョーズ』のテーマが分かるのか分からないのですが、『ジョーズ』のテーマを、実はあれを多分聞かせて、その速さだとか強弱、リズム、音色、音の持つイメージと音楽の特徴を考えさせるところがあるのですね。これは面白いなと。でも、映画を見ないと分からないのだろうなという思いはあるのですね。しかし、皆さん方なら分かるのですけれども、ダンダン、ダンダンという音楽が、サメが近づいてくる、すごくそのイメージと一緒にあって、なるほどな、そういうのを映画は見えていなくても、子どもたちにどんな情景かを考えさせていたり、これがまさに音楽を考えさせるということになるのかなと、1つの例として挙げたところです。私は現行と同じ教育芸術社でいいかと思います。

伊井委員 教育出版と、それから教育芸術社を比較したときに、教科書調査委員会のほうで、教育出版の中に作曲を求めるようなものもあつたりとかして、ちょっとそこら辺は時間の配分がなかなか難しいことが報告されていました。

それから、両社とも舞台芸術について、例えばオペラとかミュージカルとか、それから能、狂言に触れていますけれども、それが演奏となりますと、なかなか学校には、どの学校にもいろいろな楽器があるわけではないし、特に伝統文化というくくりがありますと、三味線とかある学校もあるようですが、大体のところはお琴だったりしますので、そういう点で多くの子どもたちがいろいろな体験ができるという意味では、バランスがとれた楽器に触れ合う機会が得られるような教科書がいいのかなと思います。教育芸術社のものを見ると、新曲やポップスが多く採用されていて、生徒の興味関心などが見られるという点と、それから、音楽にとどまらないアーティストとして野村萬斎さんが載っていたり、それから、国語などの教科書にも登場される詩人の谷川俊太郎さんが出ていたり、また、松任谷由実さんが出ていたり、生徒さんたちが身近に感じられるようなつくりになっているということで、あと、「耳でたどる音楽史 日本と西洋」ということで、その音楽史も配置された四角の中から情報として得やすいような作曲家の方々や歴史の中での位置関係として分かりやすいつくりになっていたもので、私は教育芸術社のほう

が使用しやすいのかなということを感じました。

教育長 ほかご意見よろしいですか。それでは、音楽一般につきましては、教育芸術社と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、音楽一般につきましては、教育芸術社と決定いたします。

庶務課長 それでは、続きまして、音楽、器楽合奏についてお願いいたします。

折井委員 今、音楽一般のほう教育芸術社ということで決まりましたけれども、やはり性質上、音楽一般と器楽合奏は同じ会社の教科書であることが望ましいのではないかなと思うのですが、ほかの委員の方、いかがでしょうか。

對馬委員 私も折井委員と同じように、同じ系統のほう使いやすいのではないかなと存じます。

久保田委員 やはり教科書調査委員会の報告を聞いていても、また、現場の声としては、教育芸術社を推す声のほう強いかなと受けとめました。以上です。

教育長 よろしいですか。それでは、音楽、器楽合奏につきましては、教育芸術社と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、音楽、器楽合奏につきましては、教育芸術社と決定いたします。

庶務課長 続きまして、美術についてお願いいたします。

久保田委員 美術は3社ありまして、この中で光村図書、この教科書を見たときに、私は大きなインパクトを受けました。例えば、折り込みの見開き3ページ、4ページというのでしょうか。そこに描かれているゲルニカとか、北斎の神奈川の海だとか、あるいは風神・雷神とか、あと、それを見るだけで、物すごく衝撃を受けるのですね。やっぱりこういったものを教科書の中にきちんと用意しておくというのは大事だなと思いました。

このほかにも、作品のつくり方、その手順が分かりやすく、丁寧に書かれている。また、レイアウトも見やすく分かりやすいということで、教科書のつくりとしては、光村図書の教科書がよかったなと思いました。

それ以上に私が衝撃を受けたのは、日本文教出版ですね。まず、あの分量というか、それに圧倒されるのですが、まずは1年、2年、3年、3冊表紙を並べてみただけで、そこでもう動けなくなるぐらいの衝撃を今回、私は受けました。びっくりしました。しかも、各3冊それぞれ中を見ていくと、やはり折り込みの見開き3ページ、4ページ等をうまくつかいながら、そこに描かれている作品等々が、実物大も含めてなのですが、この衝撃、インパクトは強いですね。圧倒されました。当然、そのほかにも、絵、作品、教材等以外に、生徒の表情、写真等もとても生き生きとしていて、目を奪われました。実際にこの教科書を生徒が手にしたとき、そこから受ける生徒の創造力や創作意欲をかき立てられるというのは、物すごく大きなものがあるのではないかと私は思いましたというところで、やはり日本文教出版の教科書がいいかなと思っています。以上です。

對馬委員 私も3社ともとにかく印刷がきれいで、圧倒されました。どこもやっぱり表紙に非常に工夫がされていて、例えば、開隆堂、2、3年の分の表紙は名古屋城の彫刻のところが本当に美しい、非常によく分かります。それから、光村の場合には、1年の表紙がルソーの『夢』の一部ですけれども、それもとてもよかったですし、日本文教出版の場合には、久保田委員がおっしゃったように、1年が「真珠の耳飾りの少女」のフェルメール、2年が東山魁夷の青いきれいな湖の絵で、3年がワールドトレードセンターとそれぞれ変わってくるのですけれども、これも非常によかったです。どこもとても丁寧なのと、鑑賞教材みたいなものが、風神・雷神であったり、プリマヴェーラとか、いろいろな有名なものがきちっと入ってきていて、本当に大きく見開きなんかに入ってきていて、非常にそこが興味関心という点では私もすごくひかれるものがありました。

特に、今おっしゃいましたような光村のゲルニカの広がったところで大きく出ているのなんかもとてもよかったですのですが、日本文教出版の、これは現行のものだと思うのですけれども、ここには、例えば、絵ではなくてバチカン美術館のらせん階段の写真であったりとか、それから、絵でゴッホの「星月夜」が、原寸大で一部が出ていたりとか、モネの「ラ・ジャポネーズ」が出ていたり、ガウディとかゲルニカとか、非常にやっぱりちゃんと見ておいてほしいものがちゃんと出ていると思います。私

は近い将来、美術というのはやっぱりデジタルコンテンツで立体的に見えるようになってくる教科なのだろうなと思っているのですが、この平面でしか見えない紙の教科書であっても、この日本文教出版のような圧倒的な部分があると、非常にやっぱりひかれるものがあります。それから、生徒作品も多く載っていて、先生方も授業を進めやすいのではないかと思いますので、今使っていて、特に現場でも不自由はないと伺っておりますので、日本文教出版の教科書でいかがかなと思います。

伊井委員 皆様のご発言のとおり、やはり3冊とも圧倒されましたが、特に日本文教出版のものが、三部作ということもありまして、世界の美術の歩みという題目の美術史も、絵画だけではなくて彫刻、仏像、アニメ、建築物と多様な範囲で記されております。単元も多いために、芸術編についても、また1つ1つ丁寧な説明、解説がなされていますので、生徒にとっても鑑賞としても深い学びになるのではないかなと思っています。北斎の神奈川沖浪裏ですけれども、水墨画の表現をはじめ、写真ありアニメあり、生徒たちの創作意欲はかき立てられて、これを見た結果、どんなものができるのか、楽しみな気がいたします。中学生の文化祭もありますので、またそこでいろいろな作品を拝見できるのも楽しみだなと思っています。

1つ私が思ったのは、その中であって、日本文教出版の教科書の中にはメッセージがあるなと感じました。「あなたらしさを見つけて、今を生きる私へ。仲間との交流の中からあなたの美を見つけて」など、自分と向き合う一方で、仲間との関わりも着目している点は、自分とも向き合い、また、仲間とも向き合う、対話になると考えています。

鑑賞の世界を限りなく広げているだけではなくて、例えば、ノーベル賞受賞者の大村氏はじめ、フードコーディネーターの方、大学の経済学の教授のメッセージなども入れて、美術や芸術が社会で生きていく中でその美術の力でまた励まされたり、元気づけられたりという捉え方があるのかなということをメッセージとして、最後、「明日への育ちとして」というのはなむけにもなっているのではないかなと思います。

デジタルコンテンツも充実しておりますし、鑑賞としては、大変優れていて、また、作品を作成する際にも参考になる教科書だと思いました。日本文教出版がいいかなと思います。

折井委員 先ほどから日本文教出版の採用されている写真だとか、絵画、

芸術品がとても優れているというお話が続きましたけれども、私も同じ感想を持ちますが、やはり今回は画集を採用するのではないというところを注意しなければいけないなと思ひまして、先日、教科書調査委員会でお伺いしたところ、やはり厚くて重くてでいいのですかというところを伺ったのが1点と、もう1つは、どういうふうにして教科書を活用するのでしょうかというところをお伺いしたのですけれども、基本的にこういった美術の教科書は持ち帰りはそうしないと。必要に応じてするのだと思うのですけれども、基本的にはロッカーに入れるということで問題はないということと、あとは、たくさん出ていることのやはり大きなメリットがあると伺いました。つまり、資料が、毎回の授業ではテーマというのがある中で、資料が豊富で、それをいろいろ鑑賞なり分析なりした後で、それに対して教師が、これどうだろう、どうやろうか、表現のテーマだったり、それを生徒たちが実際にやってみるというところまで、やはり資料が多い分、発想も広がる。

先ほどいろいろな分野からということも、やはり優れているところなのかなと思ひました。この資料が豊富、美しい写真もあわせて、教科書としてそういった面があるということがプラスになると伺いましたので、やはり表現活動がとても重要になると思うのですけれども、この表現と通じて、粘土を作るということを通じて、絵を描くということを通して、自分の自己表現だったり、もしくは自分の持っている美的感覚を磨いていくような、そういう経験を生徒たちがしていくに一番ふさわしいのは、やはり日本文教出版だと私も思ひます。

教育長 絵を描くときに、自由に描いてごらんと言われるのが、私は苦痛だったのですね。自由に描いてごらん、好きなように描いていいよ。好きって何、自由って何と本当に私は幼少期は悩み、嫌いになっていったパターンなのですね。

この美術というのは、中学校になって、今まで図画工作と言っていたものが、いわゆる美術になりますよね。この教科書に、開隆堂に、「学びの地図1年生」のところに、「美術の学習は形と色彩の冒険です。さあ、冒険を始めましょう」と書いてあるのですよ。これを私、自分が子どものとき言ってもらったら、どれだけ気が楽になったのか。冒険なのだ。だから、自由でいいのだと。身の危険のない冒険ですよ、これはね。これはね、すごくこの語りかけの開隆堂もいいなと思ひました。

光村にも似たようなことがあって、「絵が苦手なのだけれども」という子どもの質問に対して、「感じ方は人それぞれ、自分がいいと思うものを描けばよい」と書いてあるのですけれども、これができないのですね。自分がいいものというのは、何がいいのか、価値観が分からない。価値判断が分からない。でも、さっき開隆堂のところの、この働きかけはいいなと思いました。

教科書調査委員会の先生に、美術の教科書というのはどうやって使うのですかと聞きました。少なくとも国語や数学とは違うと思うのです、使い方。そうしたら、例えば、鑑賞の授業などで題材にしていたりして、見たときにインパクトがあって、創造力を高められるようなものがあるという意見が校長から来たのです。なるほどなと思って、そうやって見たときに、やっぱり私も日本文教出版、もうとにかく表紙から圧倒されました。机の上に並べたときに、「真珠の耳飾りの少女」がもうこっちを向いているのですよね。本当にね、この圧巻の作品というのはすばらしいなと思いました。

実は区民のアンケート、区民の方々からいろいろ見本に対してのアンケートを頂いた中に、こんなのが書いてあるのです。美術を学んでいる学生が書いたと書いてあるのですけれども、「日本文教出版の教科書は、他の2社に比べ、発色がとてもよく、再現度の高い作品である」と美術の専門の学生が言っているのですね。もちろん本物の絵というのはどこかにあって、それを再現しているのが教科書になるのですけれども、その色合いとか、色彩というのが非常に再現度が高いと。できるだけ子どもたちには本物を見せてあげたい。ただ、本物はなかなか見せられないので、こういう教科書を通してやるといったときに、そうしたものがやっぱりいいというのは、日本文教出版が私は一番いいと考えています。よろしいですか。

それでは、美術につきましては日本文教出版と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、美術につきましては日本文教出版に決定いたします。

庶務課長 それでは、続きまして、保健体育についてお願いいたします。

伊井委員 保健体育は4社ございます。4社拝見いたしました。それぞれに1学年の中で保健編2編と体育編1編で組み立てられています。東京

書籍は保健編から、あとの3社は体育編から始まっています。スポーツ編ということですね。

見開き2ページで4社とも課題が終わるようなつくりになっています。東京書籍は、見つける、学習課題、課題の解決に本編の説明がついていて、広げるという形で自分に置き換えて考える場面を作っています。大日本図書は、左ページに学習の狙いがあり、本文があります。右ページには話し合ってみようという投げかけがあり、参考になる資料や図などが配置されています。大修館書店は、左ページに課題をつかむ、意見を出そうという形で話し合いに方向性を向け、説明文としては本文と写真を出しています。右ページには参考資料の図など、グラフなどがいっぱい配置されていて、最後に学習のまとめがある形になっています。

その中にありまして、私は学研教育みらいの教科書についても見てみました。やはり教科書の見開きの2ページで単元の内容が完結するように配置されていて、学習の目標が提示されています。課題をつかむ、考える、話し合うという仕組みで、見開き2ページで単元が完結できるように作り込まれています。本文があり、さらに考える、調べる、そして深める場面もあります。そういう意味では、主体的、対話的で深い学びにもつながる点だと思っています。右ページには説明文としての本文があり、図や資料ともに考察できるようになっています。

どこもこの仕組みをたどっていますが、説明文の分量、投げかけの語句、資料や写真のバランスが、学研教育みらいがいいのではと感じました。説明も分かりやすく、生徒たちに入りやすいような形で書いているように感じました。デジタルコンテンツもついておりますので、自主的な活動にも向くと思います。

章の終わりに「探求しようよ」という視点を変えた課題がありまして、学びがさらに広がり、深まる期待が持てるようにも思います。章のまとめとしての振り返り、確かめのページもあって、学びが定着する機会にもなり、自主的に学習活動もでき、特に口絵のところに、口絵というのは最初のほうのところなのですけども、「いつでも話せる相手がいます」というページがありまして、いじめや人間関係の相談先について紹介されています。揺れる年頃の中学生が、今のような状況下だけではなくて、有効に、ということにはなっていないかもしれませんが、ちょっと相談してみたいなとかいうときに有効に使える機会になるかもしれないと

思っています。

また、SDGsや交通事故など幅広い課題にふれていて、自然災害についてもふれている点が、とても調べ学習的な要素があるという調査委員会からのお話もありましたけれども、それにも合致しているなど感じました。

なお、4社とも感染症についての記載があり、また、がん教育にもふれて充実した内容と思われませんが、調査委員会からは問題解決型と、それから主体的、対話的で深い学びの点からも課題解決の流れということで、学研教育みらいがいいかと考えました。

それから、どれくらいできるか、どれくらい理解できたかとか、何ができるようになったかと確かめるという意味では、教育リストのようなものがあって、学びが深まる内容になるかなと感じました。

そういう点から、心と体が密接につながっているということが伝わるという点という願いも込めて、学研教育みらいを推したいと思います。以上です。

對馬委員 保健体育に関しましては、4社拝見いたしまして、まず、東京書籍のデジタルコンテンツの豊富さというのにやはりすごく、これは教科書の内容を見るというのと、ちょっと視点はもしかしたらずれるかもしれないですけども、非常に豊富で、幾つかQRコードを取り込んで見ていくと、その中身もすごくよくできていて、今回のコロナ禍のように自主学習をするのには非常にこれはいい助けになるなど感じました。

ただ、今、伊井委員の話の中にも出てきた学研教育みらいのほうですね。感染予防の中で、人権的なことにふれているのはこの社だけだったのですね。今、やっぱりコロナがこれだけはやってくると、今日のニュースでやっていたけれども、正直にうちの会社の人、陽性出ましたと言ったところ、窓ガラスが割られたとか、そういった話を大変聞きますが、そういうことで差別をしてはいけないということがきちんとふれられていたのが学研だけだったです。学研の場合には、小学校でこういうことを学びました、これは高校で学ぶ分野ですということが非常にはっきりときちんと書かれていて、小中高の連続性も分かりやすい教科書だなと思いました。それぞれ課題をつかんで学んでまとめるというのが見開きで分かりやすくできていると思いました。

それから、区民の方の意見の中に、LGBTにきちんとふれているのが大

変いと。自分の子どものクラスでもこれが話題になることがあるので、教科書でふれてくれているとありがたいというのが書かれていまして、ちょっとほかの教科書を見てみましたら、あまりそこにふれることがなかったの、そこが学研教育みらいの特徴といいますか、今の時代にあっていると考えると、東京書籍のデジタルコンテンツの豊富さにもひかれるのですが、今回は学研教育みらいにしてもいいのかなと感じます。

教育長 昔は保健分野の授業は、例えば、雨が降ったら保健ですとか、昔というのは数十年前ですよ。杉並ではそんなことはありませんけれども、この前、調査委員会の校長は、そんなことはありません。年間指導計画に基づき、例えば、1学期、2学期、3学期としっかり割り振りをして、晴れであろうと雨であろうとお天気にかかわらず指導していますと。今ね、確かに本当にそうなっていると思います。この教科書というのは、体育編と保健編と分かれていて、どこの單元についても、いわゆる問題解決的な学習の流れに全社ともなっているなと思います。

そこで、ちょっと調査委員会に聞いてみたのですけれども、体育の中で今、求められている言語活動というのがありますね。保健体育において言語活動はどんなことなのか、具体的に伺ったら、こんなふうに答えたのですね。例えば、今まで体の動きで感覚的だったものを、言葉を使って伝えていくというのですよ。ああ、なるほどな。例えば、バスケットボールのシュートだとか、器械運動のマット、跳び箱等、何となくできてしまう子っていますよね。感覚でできてしまう。それを言葉を使って、例えば、そうでない子どもたちに伝えていくとか、一般化していくとか、そういう活動というのが、体育における言語活動と呼べるのだなと、私も学校から聞いて学んだところですよ。そういうのに教科書を使っていくのだという話がありました。

そういう視点で、改めて教科書を見たとき、やはり学研教育みらいの教科書というのは、そういうところを非常に丁寧に書いてあるのですね。もちろん小学校で学んだことと高校で学ぶことの、いわゆるつながりもしっかり書いてあるし、自分で教科書を読みながら、言語活動をしながら進めていきやすいなと非常に感じました。ということで、私は学研教育みらいの教科書がいいと思います。

折井委員 私も同感です。教科書として、大体各社見開き2ページなのですけれども、調べ学習だとかディスカッション、対話的な活動まできち

んと時間内にうまく入るようなつくりをしているのが、やはり学研教育みらいだなと思います。大修館も各ページまとめに穴埋め問題があったりして書き込めたりとかしているのですけれども、やはり学研教育みらいが各章の最後に用語の確認、基礎の完成、活用の問題があって、定着も図れるし、調べ学習や対話もできるという、本当に全部そろっているなと思います。

また、その感染症についてですとか、LGBTQのことについても、私、大学におりますと、LGBTQというものが本当に身に迫った、どうやって対応しようという、日々対応が出てくるのですね。今のところは、自分がそうであると開示するのが大体大学生頃ということが、今、現実的には多いですけれども、実際にはそこまでのあなたの苦しみだとか、不自由さ、もろもろある中で、これをいつどの教科書が取り上げるのだろうと、ある種とても関心があったのですけれども、学研教育みらいが入れてきたということで、恐らく次回の改訂だとかでは、他社も入るのかな、入れてくるのかなと思いました。先生だけが、こういうことがあるのだよと教えるよりも、やはり教科書できちんとした形で扱ってくれているほうが、知識の内容、そして説明の仕方も丁寧にすることができますので、こういった面も非常に大きな問題だと私も思いますので、トピックの選び方についても、やはり一歩先に行く、行っているのかなと思ひして、私も、今までの東京書籍も非常に見通しを持ちやすい、新任の先生でも使いやすいものであるという理解は今も持っていますけれども、やはり今回ちょっと学研教育みらいのほうで、私もいったほうがいいのではないかなと思っています。

久保田委員 4社の教科書とも、やはり使いやすい教科書になっているなと私は思いました。

その中で、東京書籍、それから大日本図書、大修館とも、学習のまとめがどちらかというと穴埋め方式というか、知識理解中心になってしまわないかという懸念がありました。そのことが1点。そして、学研教育みらいについては、先ほど来、ほかの委員の皆さんがおっしゃっているように扱い方の若干の違いがあってということを考えていくと、しぼるとすると、やはり学研教育みらいになるのかなと今、思っています。以上です。

教育長 ほかによろしいですか。それでは、保健体育につきましては、学研

教育みらいと決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、保健体育につきましては、学研教育みらいと決定いたします。

庶務課長 それでは、続きまして、技術・家庭、技術分野についてお願いいたします。

教育長 技術分野については、これちょっと資料を見ると、今回の改訂の中で一番ページ数が増えたのは技術・家庭の技術分野だということが書かれていました。これは、小学校でプログラミングが必修化され、その学んだ子たちが今度中学校に入っていくわけですから、そうしたこともあるのかなど。プログラミングの説明というのですかね。教科書の中の解説は、どうしても高度になって難しくなって、できるだけ各社が工夫して、少しでも難しい言葉を使わないようにというのは、すごく3社とも苦労というか、それをすごく感じています。どこも簡単にして、特に教育図書などは、できるだけ難しい言葉を使わないようにして、そういうのを避けて、できるだけ避けて、避けて作っているということが感じられました。ただ、私は教育図書を見ていて、教科書としては確かに簡単になっているなと思ったのですけれども、何となく図鑑みたいな感覚ですよ。教科書というよりも図鑑みたいな感想を私は持ちました。

今、新しい情報分野のところにつきましては、どこの社も本当に工夫して書いていて、例えば、東京書籍は、Society5.0を見開きで作っていますし、これからの世の中がどうなっていくのか、AIのことなんかもふれています。これから技術を学んでいく子どもたちというのは、当然ながら、AIと共存して生活していかなければならない社会に間違いなく入っていくわけですね。AIは賢いとよく言いますが、AIは最初から賢いわけではなくて、ビッグデータを学んでいくから賢いのであって、同じことを人間がやったら、それは絶対に追いつかない。そういうふうに考えたときに、AIの得意な部分と人間の得意な部分というのは必ずあって、そこをしっかりと理解して生きていくような子どもたちに育てていきたいな。この技術を通して、特にそんなふうにしていきたいなと思っています。

教科書は、開隆堂と東京書籍を中心に見させていただきまされたけれども、やはりものづくりの手順だとか、情報セキュリティ、情報モラル、

知的財産保護、そのあたりというのは非常に簡単な言葉で、できるだけ簡単な言葉で丁寧に取り扱われているなと思いました。

先ほど音楽のところで著作権の話をちょっとしましたけれども、まさにここも情報モラル、ルール、マナー、著作権というのは、具体例を挙げながら書かれているというのが非常にいいなと思いましたので、私は開隆堂がいいかと思います。

久保田委員 東京書籍の教科書と開隆堂の教科書、やはり扱いやすいのではないかなと私は思いました。実際に、教科書調査委員会の先生方にもお聞きした中で、どちらかってなかなか難しかったかと思うのですが、現場の声としては、開隆堂のほうが若干強かったかなと私は受けとめています。以上です。

教育長 よろしいですか。ほかご意見よろしいですか。

それでは、技術・家庭、技術分野につきましては、開隆堂出版と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、技術・家庭、技術分野につきましては、開隆堂出版と決定いたします。

庶務課長 続きまして、技術・家庭、家庭分野についてお願いをいたします。

教育長 家庭の教科書につきましては、開隆堂出版も東京書籍も教育図書も基本的には技術と同じ教科書の作り方がされているなと思いました。

それで教科書のサブタイトルというのですかね。開隆堂は、「生活の土台、自立と共生」なのですね。東京書籍は「自立と共生を目指して」。教育図書は「暮らしを創造する」というサブタイトルがついているのですけれども、「自立と共生」は学習指導要領にある言葉で出されているのだろうと思いますが、まさに家庭、いわゆる家庭科ですね。家庭科というのは自立と共生だろうなど。自立と共生というのは、まさに教育の目的である2つ。自分をしっかり高めること、人格の完成を目指すことと、国家社会の形成者としての資質育成。まさにこれが2つ。家庭科を学ぶということは、まさに私、社会科の公民のときにもお話ししましたけれども、教育の目的にかなり直結する教科なのだろうと思います。

家庭科というのは、小学校の5、6年生から学んできているので、教科名も同じなのですが、中身を見ると、かなりバージョンアップしてい

る、小学校のときより。教科名が同じなので、子どもにとってもつながりが明確になっていて、小学校の学びもちゃんと書いてあるのですけれども、かなり学んでいくことというのは、生き方に関する事まで含めて、本当に深まっているなと思います。

あと、今、非常に、特に若い人たちが危ないといわれている消費者トラブル、いわゆる売買契約だとか、クレジットカードやQR決済などのことについても、まさにこれからの社会で、もっともっと広まっていくだろうということが丁寧に書いてあって、そういうトラブルに遭わないようにするためのことなんかも、生徒に考えさせるという場面があったりして、このあたりはいいなと。丁寧に扱っているということで、私は開隆堂でいいかと思います。

對馬委員 私も開隆堂でいいと思うのですが、開隆堂のいいところとといいますか、最初にSDGsのことがあって、最後は消費生活・環境の分野で終わっていて、持続可能な社会に向けての方向性がすごく分かりやすい、一貫しているなと感じましたので、これは杉並区の育てたい子どもたちに合っている教科書ではないかなと思います。細かいことを言うと、調理実習例に組み合わせ例というのがちゃんと出ていまして、主婦が献立を立てるのに1個ではやっぱり献立にならないので、調理実習例がいっぱいあってもどれをどう組み合わせるかというのが、やっぱりすごく大事なことだと思うのですね。それをきちんと書かれているのは、これはいいなと思いました。

伊井委員 私も開隆堂が使いやすいなと思った決定的なことなのですが、先ほど教育長がおっしゃったように、生活の土台、自立と共生ということで、これは区民アンケートのほうでも、自立と共生ということがとても前向きに捉えることができたという意見がございました。その中で、教科書のつくりが、家庭というものから、それに伴う衣食住、消費、環境と流れているので、学びの順序としては大変受け止めやすいのかなと感じています。最初のほうには幼児のころの自分と今の自分ということで、2001年から12年の出来事を載せていたり、手型、足型の成長、写真の使い方など、とても資料が適切で、幼児の心の発達や遊びの必要性にまでふれていますので、これからの時代、家庭は夫婦とともに維持していく形がさらに求められることから、様々に学校の生徒さんにはいろいろな家庭の事情があらわれる方もいらっしゃると思うので、そ

の辺は配慮を要するところではございますけれども、とても有意義な内容だと感じました。

杉並区内では、今はもちろんお休みしているのですが、赤ちゃんとのおふれあい事業のようなことを行っている学校もあって、また逆に保育園等で職場体験をさせていただく生徒もいますので、有効な学びになるのではないかなと思います。多様な人が暮らす地域というところで、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインの視点にも立っていて、高齢者との関わりにもふれています。というのは、今の日本の社会の構図にも合致しているように感じています。地域のつながりについても言及していますので、杉並区の大きな特色ですし、その意味でも開隆堂の教科書がふさわしいと言えるのではないかなと思います。

先ほどの教育長のおっしゃった消費者被害に遭わないあたりの注意喚起については、巻末で防災への備えなどについても併せて掲載されていて、大変前向きな取組だと思いました。以上です。

折井委員 私も開隆堂に賛成です。

教育長 よろしいですか。それでは、技術・家庭、家庭分野につきましては、開隆堂出版と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、技術・家庭、家庭分野につきましては、開隆堂出版と決定いたします。

庶務課長 それでは、英語についてお願いいたします。

對馬委員 英語は6社ございました。どれもカラフルで楽しく英語を学べるようにしようという心意気といいますか、それはとても感じられましたけれども、語彙の数が大分違ったりとか、中ではいろいろ見ていくと、違いがいろいろ見えてきました。1つは、ある程度自主学習ができるということも大事な観点かと思いますが、英語の場合には、多分耳から聞いて、それが最終的には使えるようになるということが大事になってくると思うのですが、東京書籍の『NEW HORIZON』、これはトピックが異文化とかSDGs、パラリンピック、それから、杉並、今年はできませんけれども、海外留学。そういった興味や関心を引くようなトピックが多いかなと思います。学習がしやすいかなと思います。

それから、CAN DOリストというのがございまして、これで系統性とか、活動目的などがかなり適切に学習できると思います。小学校の今5、6

年生、英語の授業が始まりましたけれども、その子たちが入学してくるということを考えたときに、その小中の連続に関しても、適切にできている教科書だなと思いました。全体的に活動量も豊富ですので、本だけで学ぶ、教科書だけで学ぶということではなくて、対話をしたり、主体的に考えていたり、そういったことが多く組み込まれているので、この『NEW HORIZON』、東京書籍、こちらがいいのではないかなと思いました。

久保田委員 私もこれまで小学校の英語の授業を見たり、また小学校の英語の教科書を見たりしてくる中で、その辺で小学校の英語とのつながりを考えたとき、どの教科書がいいのだろうか。そんな思いで見っていました。その中で、東京書籍の場合、最初、ユニット0で聞く、話すから入って読む、書くに展開していくという流れは、小学校からの流れを考えるといい入り方、流れかなと正直思いました。実際に1年生の教科書の前半部分を見てみますと、いつも左ページの下に小学校を意識した押さえが入っていて、例えば、小学校の単語みたいなことがきちんと入ってきていたりとか、その辺も丁寧な扱いだなと思いました。実際に、授業を進めていく上では、聞いたり話したりして分かることを読んだり書いたりできるようにする、この学習のパターンが全てのユニットに貫かれていて、そのユニットが進むにしたがって、当然、内容のレベルが高まるというのはありますが、そこにさらに文法的な押さえも入ってきたりして、非常にその流れの中で生徒たちにしっかりその英語の力が身についていくのかなと思いました。以上です。

伊井委員 皆様の意見に賛成なのですがけれども、私は、英語の教科書なのですがけれども、導くためのステップ・バイ・ステップの形で、日本語の分かりやすさが平易な日本語で表現されていて、改めて、逆に日本語でのコミュニケーションの大切さも教えてくれているなど感じています。この分かりやすさで、英語に対する、小学校から始まっているので、大分抵抗感はないと思いますが、この分かりやすさで不安も薄れていくのではないかなと思います。

1年生の学年末、2年生の学年末、3年生の学年末での目標、到達点も明確に表示しているため、自分としても見通しが立てやすいのではないかなと思います。2年生の見開きのところでは、「英語を通じて世界を広げよう、どんな世界に出会えるかな」。3年生になりますと、見開

きのところで、「SDGs、英語を通じて世界を見直そう。持続可能な世界のために」といって見通しが立つ、どこを目指しているのかということも分かる。そんな丁寧なつくりの教科書になっているなど感じています。あと、デジタルコンテンツが、とにかく発音の雰囲気というか、感覚なのですけれども、とても好きだなと思いました。というわけで、東京書籍になるといいなと思います。

教育長 最初はThis is a penではないのですね。ある人に言われたのですけれども。もうThis is a penなどという教科書は、もうかなり化石ですよ、今は。でも、ある年代から上の人たちというのは、This is a penと習って、それがappleに変わると、aではなくてanになると、そういうのやって、ThisがThatになったり、そういうのをやたら最初にやったなというのが、自分の英語教育の思い出なのです。その結果がこうですから、なかなかお話をすることはできない。しかしながら、今の教科書は、どこの教科書もそうですけれども、場面や状況に応じて、つまり場面を作って、その場面で会話を通した、そういうコミュニケーションを通して、全てがどのユニットでも作られているというのは、まさにこれは使っていける、いわゆる英語が使える日本人の育成というところに向かってきているなと思います。

私はちょっと見ていて、三省堂と啓林館は、やっぱりちょっと1文が長いのではないかなと。明確にちょっと数えた訳ではないのですけれども、ちょっと読んでいて難しいなと感じたのが三省堂と啓林館でした。やはり東京書籍の教科書、私も一番これがしっくりきたなと思っているのですけれども、読む、書く、聞く、話すのバランスがしっかり取れているのと、あと、文法の説明みたいなものがあるのですけれども、非常に丁寧に書かれている。そういったところから、英語が苦手な子どもたちにとっても、比較的ここは分かりやすい教科書なのではないかなということ、東京書籍がいいと思います。

折井委員 どの教科書になるかなと、私が来年、研修に関わるときに何になるかというか、本当にもう随分と長い時間をかけて見てきましたので、ちょっと長くなるかもしれませんが、すみません。

英語の中学校の教科書を見るに当たって、幾つか重要と思う観点を作っていました。1つ目、小学校での外国語が、英語ですけれども、教科化されました。その変化に十分に対応しているか。それ1点目です。

2つ目、こちらは教科書調査委員会でもかなり強調されたところなのですけれども、まず、音声から入る。ここが大切であるということ。その原則にのっとって、かつ、音声から入ると、インプットですけれども、インプットからアウトプットに移る際に、十分な足場かけ。要はサポートですね。ちゃんと聞いたものをそのまま言うのではなくて、自分の意見として発話ができるようになるか。そのための助けがきちんとあるか。3つ目は、今までの英語のテストというと、訳をしたりだとか、英作文をしたりだとか、単語を埋めたりということが多かったと思うのですけれども、今、杉並区ではパフォーマンス評価。要は、スピーキングを評価するといったことが行われております。そちらのパフォーマンス評価まで行くのに適した教科書であるかということが3点目です。4点目が文法の説明です。ここもう10年、15年ほどは、コミュニケーションができるための英語ということで、どんどん話すほうにシフトしてきたと思うのですけれども、本当に英語が使えるようになるためには、とても文法が大事になります。教育長が話をされていましたが、文法の説明が非常に重要で、コミュニケーションな教科書であるがゆえに、文法の説明がきちっとしてあるか、十分であるかがとても大切になります。結論として私も、東京書籍が圧倒的に勝っていると思うのですけれども、すみません、専門でもありますので、各社について、今の4観点を中心に言及したいと思います。

開隆堂出版『SUNSHINE』ですけれども、よかった点は、書き込み欄が豊富で、もしかするとワークシートなしでいけるかもといった書き込みが豊富であることと、もう1つは、OUR PROJECT。例えば、1年生、「あなたの知らない私」などで、ここでパフォーマンス評価がうまく学期末等でできるのではないかというところでした。ただ、ちょっともったいない点が、小学校からの移行への配慮が、どちらかという低いのですね。小学校で習ったことの確認等が少ないということ。そして、文法の説明が、当然あるのですけれども、例えば東京書籍のものに対して、ちょっと足りない。例えば色で主語と述語や補語を示しているのですけれども、実際、英語が苦手な子というのは、そこがよく分からなくなってしまふのですよね。なので、主語、述語、補語、1個ずつ書いてほしい。訳もできれば入れてほしい。文法の説明のところ訳何だろうと考えているのはもったいないことなので、きちんとそこも書いているというこ

とが望ましいですので、その点でちょっと文法の説明が少し足りないのかなと思いました。

次、三省堂『CROWN』ですけれども、ここは音声から入っています。聞いてみよう、なのですけれども、その後、すぐに話してみようというところがあるのですけれども、すぐに話せません。足場かけがないと、子どもたち、生徒たちはそんなに、外国語ですから、そんなに簡単にいかない。それに対して、東京書籍のほうは、文例とか説明をきちんと入れているのですね。こうやって話せばいいのだというところが書いてある。実は、見開きの次のページに、聞いてみようと、また話してみようがあって、ここでポイントの説明とか文例があるのですけれども、繰り返すになってしまうのですね。だったら、聞いてみようの後に、文例とかいろいろサポートがあって、そして話してみるのがいいのかなと思いました。リスニングのトピックがたくさんいろいろ入っています。構成が少し複雑と言えば複雑、豊かと言えば豊かなのですけれども、ここがもしかすると、例えば、私立のところだとこれはいいのではないかなと思いました。時間数も多くとったりだとかできるところであれば、これでやりきれるような気がしました。ですが、例えば、杉並区の場合に、この幾つものバリエーションのあるリスニング活動、話すトピックが少し多過ぎるかなと思いました。

教育出版『ONE WORLD』ですけれども、ここも足場かけがやや少ない。リスニングの後に、すぐに「さあ、自己紹介しよう」とあります。文例があるのですけれども、今度は逆に長いのですね。すごく長い文例集があったりすると、実際、内容理解も今度必要になってしまいます。そうすると、ここでまた、さあ、この訳は何かなとか、これはどういう意味かなという活動が入ってしまうので、もしかすると、ここはもう少し短くてもよかったのかなと思うので、例えば、すぐ自己紹介リスニングの後に、listen and repeatということがあったり、同じ内容の理解がちょっと繰り返されてしまうのが少し、例えば杉並区でやるにすればは時間が足りなくなるかなと思いました。ただ、この教科書ですごくいいなと思った点が、コミュニケーションの技術、コミュニケーションするに当たっての重要な意識づけがすごく手厚くありました。例えば、スピーチをするときに気をつけたいことを3つ書こうねとか、もしくは、リスニングをするときに、人の話を聞くときはこういうところに注意しようよ

といった活動があって、そこはとてもいいなと思いました。ただ、先ほど申し上げましたけれども、スピーキング活動、アクティビティがたくさんあるのですけれども、恐らくちょっとこれは、私たちにとっては少し多過ぎるのかなという印象を持ちました。

光村図書『HERE WE GO』ですけれども、帯教材がたくさんあったのが特徴的だと思いましたが、ちょっと発音、私、発音指導が専門なのですけれども、22ページ、Sの音、「歯を軽く合わせて」ですとか、Rの音、「舌をどこにもつけないで」辺りが間違っていますので、訂正が必要だと思います。

啓林館『BLEU SKY』ここは、トピックがとても様々で面白いと思いました。そして、単元末で自己表現活動ですとか、学期末のプロジェクトでパフォーマンス評価がしやすい教科書だなと思いました。ただ一方で、最初に読ませるのですよね。最初に読ませるというのが、いろいろな考え方があると思うのですけれども、本区の方角性とは違っているというところちょっと合わないのかなと思いました。

最後、東京書籍です。こちらは、今4つの、冒頭に観点と言ったところが、全部余すことなく入っています。小学校の教科化に対する変化に対応しているかという点なのですけれども、1年生の前半と後半で構成を全く変えています。先ほど、ほかの委員からお話がありましたけれども、小学校で何を習ったね、では、これを話してみようといった構成になっている点が非常にいいと思いました。トピックの入れ方も他社と大分違っていて、ここはもしかすると好みが出るかもしれないのですけれども、他社の場合には自分の生活、身近なものと、世界的なものが交互にある感じなのです。なので、3年間ばらけている感じ。ばらけさせているのですけれども、この東京書籍の場合には、1年次はほぼほぼ、1年次の特に前半はほぼほぼ身近なことです。まず自分から始めて、身近なもの。学校だとか、家庭だとか。そこから、1年の後半から世界のものに進んでいく。最後は世界市民として生きるといったようなSDGs、持続可能性、世界のためにという視点からの英語ということになります。ここは好みなのかなと思いました。

文法の説明が、東京書籍の場合に非常にしっかりとっていて、例えば、be動詞を説明する場合には、隣に一般動詞の説明も入れるのですよね。子どもたちからすると、動詞、何か全部同じはずなのに、違う種類がある。

だから、対比させると、すごく分かりやすい。そして、訳も出ているし、文法も、先生がこれ主語でしょう、補語でしょうと言っても、難しいのですよね。習ったばかりの専門用語は。なので、そこにあることに本当に意味があると思いますので、文法の説明もしっかりある点がとてもいいと思いました。また、ステージアクティビティというのがございまして、例えば、最初、ユニット5ではポスターを描くのですね。それがそのままパフォーマンス評価ができるなどか、2年生では将来したいこととか、人気のあるものリサーチとか、地域紹介とか、今まで杉並区でやってきたパフォーマンス評価のタイトルとも合致しますし、先生方も移行としてとてもしやすいのかなと思いました。

判が大きいというところが賛否両論あると思うのですがけれども、英語はもともとA4で生きている世界ですので、ちょっと慣れたほうがいいな。ただ、使い勝手について、その点は後日どうなるかなというところはちょっとありますけれども、いずれにいたしましても、小学校からの移行もできるし、また、リスニングから、インプットからアウトプットまで十分な足場かけのある、そしてパフォーマンス評価ができるというところで、非常に優れた教科書だと思いますので、私は東京書籍がいいと思います。以上です。長くなって申しわけありませんでした。

教育長 よろしいですか。それでは、英語につきましては、東京書籍と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、英語につきましては東京書籍と決定いたします。

庶務課長 それでは、道徳についてお願いいたします。

伊井委員 道徳につきましては7社ございます。東京書籍、教育出版、光村図書、学研教育みらい、日本教科書は分冊のない形です。日本文教出版と廣済堂あかつきはノートが分冊となっています。道徳が教科化されて2年がたったところだと思います。2年前に時間をかけて教科書を採択いたしました。特別の教科 道徳として歩み始めたばかりだと思っています。

道徳は、教材を通してよりよく生きるための基盤となる道徳を養うため、自らを振り返って考えたり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるように工夫するなど、生徒自身が主体的に学習に取り組む教科です。

杉並区の教育ビジョンにある学びに向かう力を養うことにもつながっているなど私は考えています。教材を読んで、答えが1つではない。多様な意見を聞き合い、共有して交流し、議論する道徳として教科となつてから2年がたちました。その意味では、現在の東京書籍の教材が、生徒と先生方にとって定着してきた時期であるとの、調査委員会からの報告もありました。

7社の教科書を拝見して、ほかの会社のものも取り上げる教材にはとても工夫が加えられたり、また、質問の内容や読解のように限られた答えを求めるのではないというあたりも工夫はされてきていると思いますけれども、内容項目のバランスがやはりよくて、読後の問いが限定的な問いではないという点も踏まえて、東京書籍のものが望ましいのではと思っています。

内容項目についてですが、自分自身に関すること、ほかの人との関わり、集団や社会との関わり、生命や自然、崇高なものとの関わりがバランスよく配置されています。教材そのものもそんなに大きく変更はなかったのですが、1つずつ吟味されて、正直言いまして、本当に胸が熱くなるような、大人も考えさせられるような教材も散りばめられています。そういう意味では、ほかの出版社においても、胸を打たれる、心が動かされるような教材が存在し、各社のご尽力には頭が下がる思いです。

教材の締めくくりにあります問いは本当に簡潔で、子どもたちがそのことによって活動を行うのですけれども、その後の考える時間とか、議論に幅ができると私は考えています。「考えよう」、「自分を見つめよう」との2種類の中で、その問いがなされています。

保護者からのアンケートでは、いじめについては、1年間を通して考えてほしいとのご意見がありましたが、調査委員会の先生の話をお伺いしたときに、国際理解なども含めて幅広く道徳の授業の教材についてを考えていて、学習を深められるとのお話も頂きました。学校ごとに授業が様々に創意工夫を凝らして進んでいる点もあり、また、先生方、子どもたちとの活動が定着している過程であることも通して、また、私自身も何度かその道徳の授業をいろいろな学校に見に行っている観点がございいます。そこでの先生方や子どもたちの努力を拝見して感動するところでもあります。それを踏まえまして、教材の順番に工夫があるとか、裏表紙にQRコードの資料があつて参考になるとか、いろいろないい点ござ

いますが、杉並の取組に合致しているという点も含め、先生方の定着の度合い、説明などを含めまして、東京書籍がいいのではないかなと考えております。

教育長 2年前に採択し、教科書会社が少し減りましたが、中身を見ると、ほとんど題材は変わっていないところが多いなと思いました。もうどこの会社の題材も、もう読んでいて涙が出てくるものがたくさんあって、大人をこれだけ感動させるものは当然、子どもも感動させるのだらうなと思いながら、これをどうやって教員が授業として、いわゆる取り扱っていくかというのは責任重大だなと思いました。道徳というのは、人としてよりよく生きていく、その生き方を学んでいく。そういったものであり、前回教科化されて、いわゆる議論する道徳、いわゆる話し合いをしていく道徳というのを主眼にしていますけれども、扱われている題材というのは、生徒の身近なトラブルだとか、あるいは、現代社会の課題。これは先ほどお話があったいじめだとか、認知症もたくさん出てきましたね。認知症のおばあちゃんの話とか、おじいちゃんの話とか、それから情報モラル。それ以外に、生き方を学ぶ『プロジェクトX』を題材にしたものがあつたりとか、こういったものがあって、どれもこれも、やっぱりその生き方を学ぶというだけではなくて、その時代やその出来事を学ぶということにもつながり、非常に価値ある題材がたくさんあるなと思いました。

それで、2年前、本区は東京書籍を、今現在学習をしているところですけれども、実際、教科書調査委員会とかにお話を聞いたところで、特に大きな課題もなく、すばらしく道徳の授業を展開できていると。私は廣済堂あかつきの本も内容的にいいなと思ったのですが、やはり別冊ノートというのが、2年前もここが議論になって、やっぱり扱いづらいという話になったので、そうすると考えたときに、東京書籍が一番いいかなと思います。

對馬委員 2年前に採択をするときに十分に、そのとき道徳だけだったので、かなり時間をかけて勉強もしましたし、議論も出しました。道徳を小学校でやって、中学校でやってという中で、道徳の教材は起承転結の結がないというので、私はすごくそこに、私は多分、そこが、国語の人間なのだなとそのときに改めて思ったのは、やっぱり国語の教材というのは起承転結というのがあって、主人公がどこでどういうふうに気持ち

が変わるでしょうとか、そういうふうにやっていくのですけれども、道徳は、あえて結がなく、そこをみんなで考えましょうとか、自分の中で考えてみましょうというのがとても大事なのだということを改めてそのときに勉強いたしました。

教育長がおっしゃったように、そのときにすごく勉強して、みんなで議論して東京書籍を採択させてもらって、その後2年間、特に大きな教科書の内容的な変化もほとんどなく、現場のほうでもこれに対して特に使いづらいということもなく、先生方も一生懸命、これで授業をなさっているという段階ですので、ここは継続して現行の東京書籍を採択してよろしいのではないかなと思います。

折井委員 先ほどからほかの委員、話されていますように、道徳科目の目的は、ある1つの価値観に生徒を導くことではない。そこは本当に明確にみんなで話し合って、そういう結論に至っています。各授業において議論をして考えを深めることにあると。そのためにはやはり議論の時間を十分に取れるようにすることが必要です。そうすると、その導入の本文のところは長文過ぎず、そして、その方向性を限定しないように発問が多過ぎない。こうですか、ああですか、こうですよ、みたいなことを決めていく、方向性を決めていくような発問がないこと。要は数が少ないこと。そして、記録を取るための時間が、例えば、国語のように作文を書いていると、それだけで時間が取られてしまうので、やはり別冊ノートだとか、そういったところで時間が取られないように記入欄が大き過ぎないことということで、やはり東京書籍がいいのかなと思います。

私は小学校の道徳の教科書のときに、毎回この話をするのですけれども、カボチャのつる。カボチャのつるが道路に伸びていってしまう。それはいけないよ、配慮しなさいと言うのですけれども、でも、私は、カボチャは植物で、植物には生きる権利があるから、道に出たっていいという私は意見なのです。その意見がちゃんとクラス内で言えて、そうなのだね、君はそういう考え方をするのだねということの許容がある。そういうふうに杉並区の道徳教育が進んでいってほしいと思っていますし、現行の東京書籍の教科書はそれをサポートしてくれる教科書だと思っています。

久保田委員 ちょうど、3年前に初めて小学校の道徳の教科書を採択。そして、2年前は中学校の道徳の教科書採択ということで、2年連続やっ

てきましたが、そのときには、やっぱり考える視点。東京書籍のように2つの視点でいくのと、もう3つ、4つ、5つも出てくる、そういった教科書があったり、本当に2、3年前はまだばらばらな状態だったと思います。でも、今回見てみると、やっぱり2つが増えていますし、多かったところも3つになっていますよね。ですから、やはり道德の授業において、教科書を使ってやっていく上で、細かい考える視点をたくさん与えてやっていくとか、あるいは、分冊ノート、ワークシート等で最初から生徒の思考を枠決めしてやっていくというスタイルではなくてやっていくことが大事だと。そのことが今、この2年間ぐらいで定着してきているのかなと私は考えております。

やはり道德の授業で大事なものは、今、折井委員が言ったとおりで、1つの価値観の押しつけではなくて、やはり1つの教材から多面的、多角的にお互いが考え合ってやっていくということが一番大事なことで、そのようなまさに生徒たちが自ら考え、そして共に考え合っていくという授業が求められていると。そういった中で、やはり東京書籍の教科書は、それに応えるものとして今もあるのかなと私は考えています。

先ほど伊井委員も言っていたのですが、2つ視点、考えようということと、自分を見つめようという2つの視点で、1年生から3年生まで通しています。これはどういうことかということ、1つの教材からそれぞれがやっぱり考えるということが1つあって、それを踏まえた上で、自分を見つめようですから、まさに自分の在り方とか、自分の生き方について考えていくということ、この2つの視点で道德の授業をやっていくということが、やはり明確であるのが一番かなと、今回も思っています。

やはり教材を通して、生徒たちが自ら考えて、その考えをお互いに戦わせていく中でやっていく。それにまた応える教科書として東京書籍があると私は思います。しかも、単元の位置づけが、28の共通教材と、そのほかの付録という位置づけで、長文7つぐらいが位置づけられているというのが、1年、2年、3年共通なのですが、言ってみれば、この教材、単元の扱い方は、ガチガチな、年間35時間、35単元で押し通すという発想ではなくて、やはり地域とか学校とか、学年の実態に合わせてこの教科書を使ってやっていくという意図も明確で、それもいいところかなと思います。しかも今回、プラス教材ということで、詩とか人物とか体験活動等々、そういったものも適宜盛り込んでいくことで、やはり年

間の道徳の授業に変化をつけていく、アクセントをつけていく。そういった工夫も見られますし、発展的に考えたり広げたりしていくという丁寧なつくりになっているなど思いました。全体のバランスも含めて、東京書籍を引き続き使っていくということがいいかなと思っています。以上です。

教育長 よろしいですか、ほかにご意見。

それでは、道徳につきましては、東京書籍と決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、道徳につきましては東京書籍と決定いたします。

それでは、以上で全ての種目が終了いたしました。ここで再度、種目ごとに確認してから最終的な決定をしたいと思っておりますので、庶務課長、全ての種目について、発行者名の読み上げをお願いいたします。

庶務課長 それでは、種目と発行者名を申し上げます。国語、光村図書出版。書写、光村図書出版。社会、地理的分野、帝国書院。社会、歴史的分野、帝国書院。社会、公民的分野、帝国書院。地図、帝国書院。数学、教育出版。理科、大日本図書。音楽一般、教育芸術社。音楽、器楽合奏、教育芸術社。美術、日本文教出版。保健体育、学研教育みらい。技術・家庭、技術分野、開隆堂出版。技術・家庭、家庭分野、開隆堂出版。英語、東京書籍。道徳、東京書籍。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。それでは、採決いたします。議案第76号につきましては、ただいま読み上げたとおり採択することに異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 それでは、異議がございませんので、議案第76号につきましては、そのように決定いたします。

庶務課長 それでは、引き続きまして、日程第2、議案第77号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和3年度使用）の採択について」を上程いたします。引き続き、済美教育センター所長からご説明いただきます。

済美教育センター所長 私からは、議案第77号「杉並区立特別支援学校並びに杉並区立小学校及び中学校の特別支援学級において使用する教科用図書（令和3年度使用）の採択について」ご説明いたします。特別支

援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律などの関係法令に基づき、毎年、採択を行っております。また、特別支援教育の教科用図書の採択については、学校教育法の附則第9条に規定に基づいて行っておりますが、特別支援学校については学校教育法施行規則第131条第2項に、特別支援学級については同第139条において、一般図書を使用することができると規定されております。中学校教科用図書の調査・研究と同様、規則、要綱、手引きに基づき、特別支援教育教科書調査委員会を設置するとともに、特別支援学校及び特別支援学級からの報告を参考に、合計730点の図書について調査・研究を行いました。調査・研究結果につきましては、7月28日に特別支援教育教科書調査委員から、教育委員へ調査報告書とともに口頭でもご報告させていただきました。

提案理由は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条の規定に基づき、特別支援学校及び特別支援学級で使用する教科用図書を採択する必要があるため、ご審議をお願いするものでございます。

議案の朗読は省略させていただきます。

庶務課長 それでは、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

對馬委員 730点もの調査・研究ご苦労さまでございました。ありがとうございました。これは毎年のことですけれども、特別支援学級や特別支援学校では、まとめて採択をして、それぞれの児童・生徒さんに合わせたものを先生が選んで使用していただくということですので、私としては異議ございません。このまま採択していただいてもいいかと思っております。

教育長 ほかにご意見いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかにご意見がないようですので、採決を行います。議案第77号につきましては、特別支援教育教科用図書採択候補一覧のとおり採択することに、異議ございませんか。

(「異議なし」の声)

教育長 異議がございませんので、議案第77号につきましては、そのように決定いたします。

それでは、以上をもちまして本日予定されておりました日程を全て終了いたしました。

庶務課長、何か連絡事項ありましたらお願いします。

庶務課長 次回の教育委員会の日程でございますが、8月26日水曜日の午後2時からを予定してございます。よろしくお願いいたします。

教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。ご苦労さまでした。